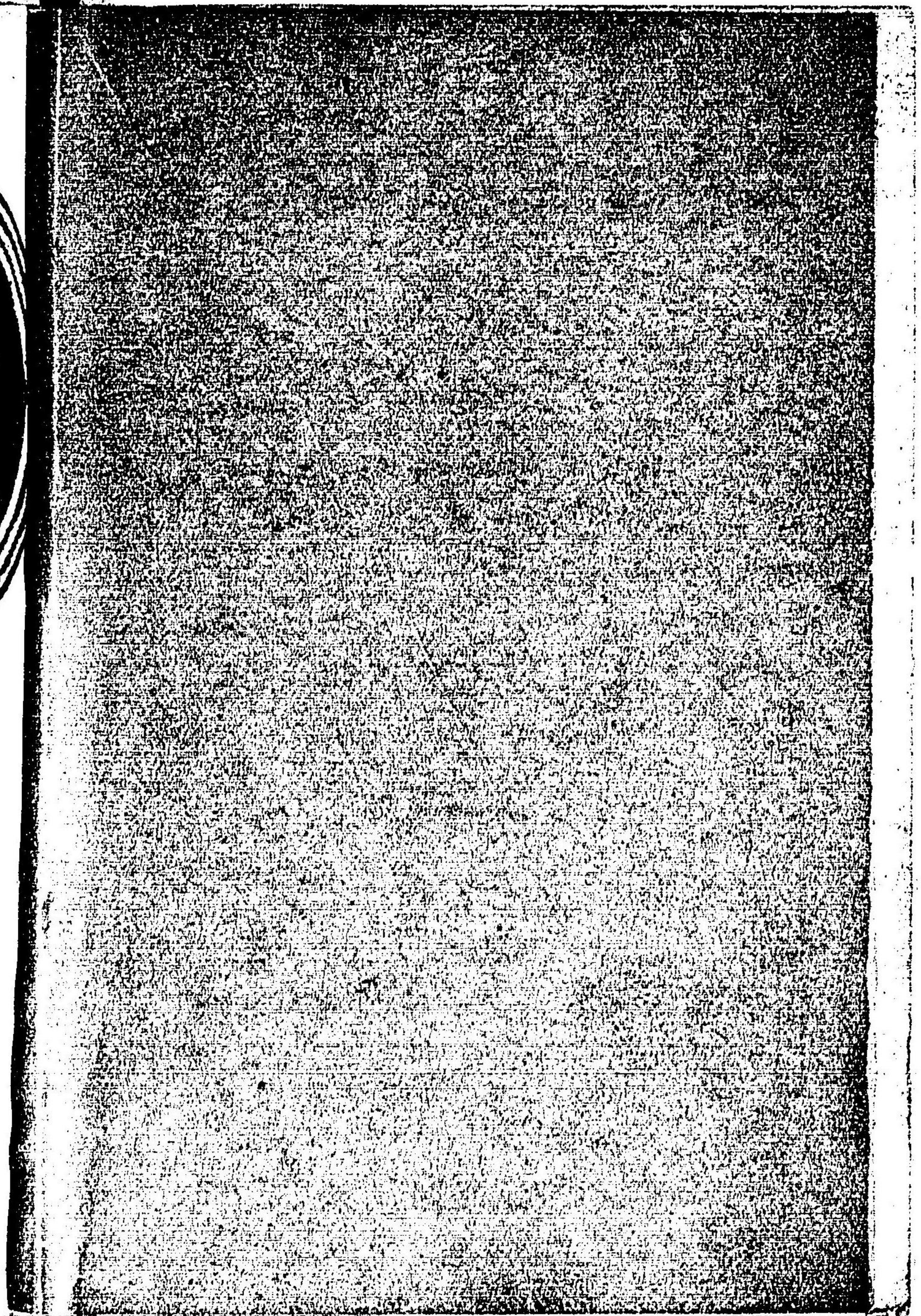
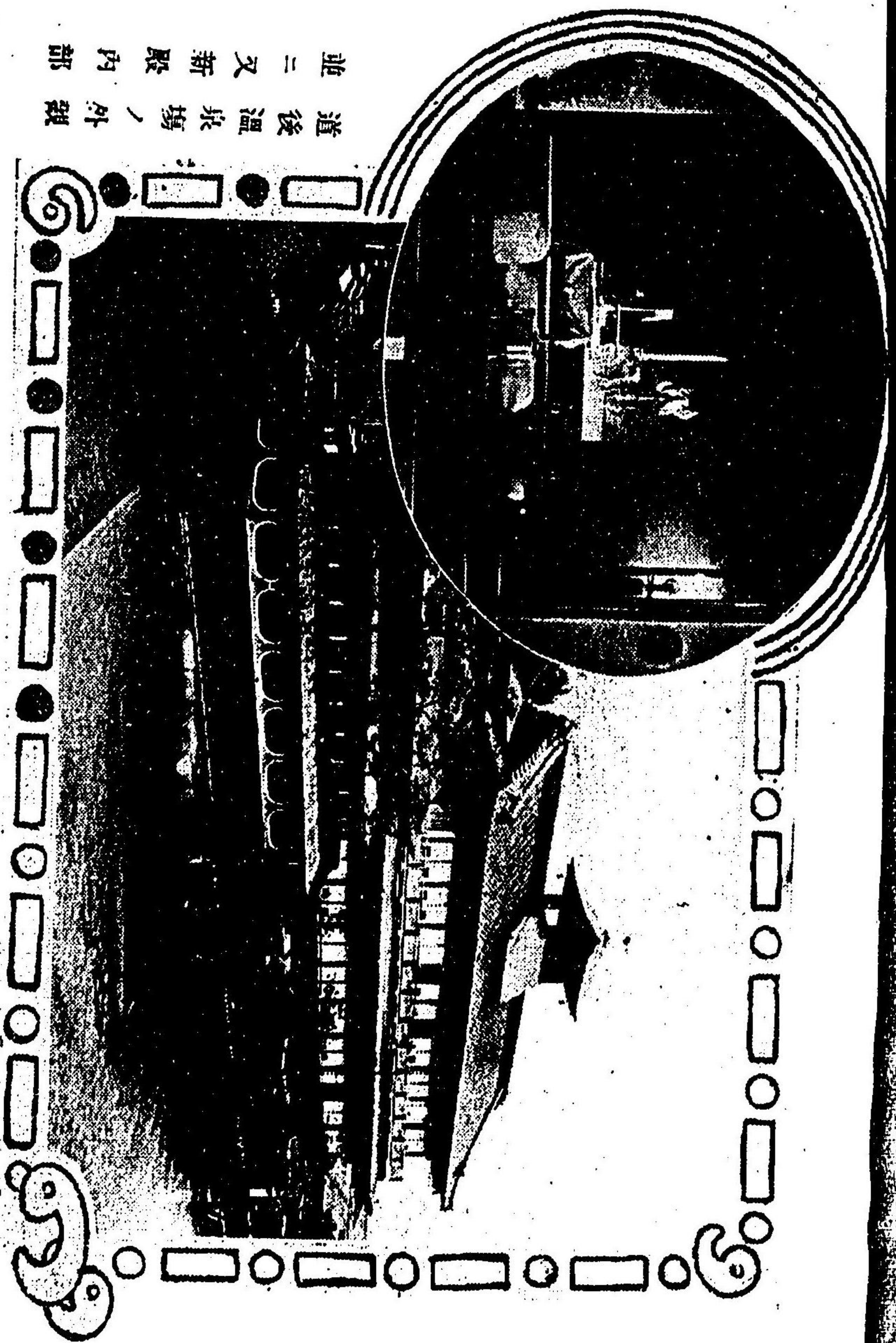


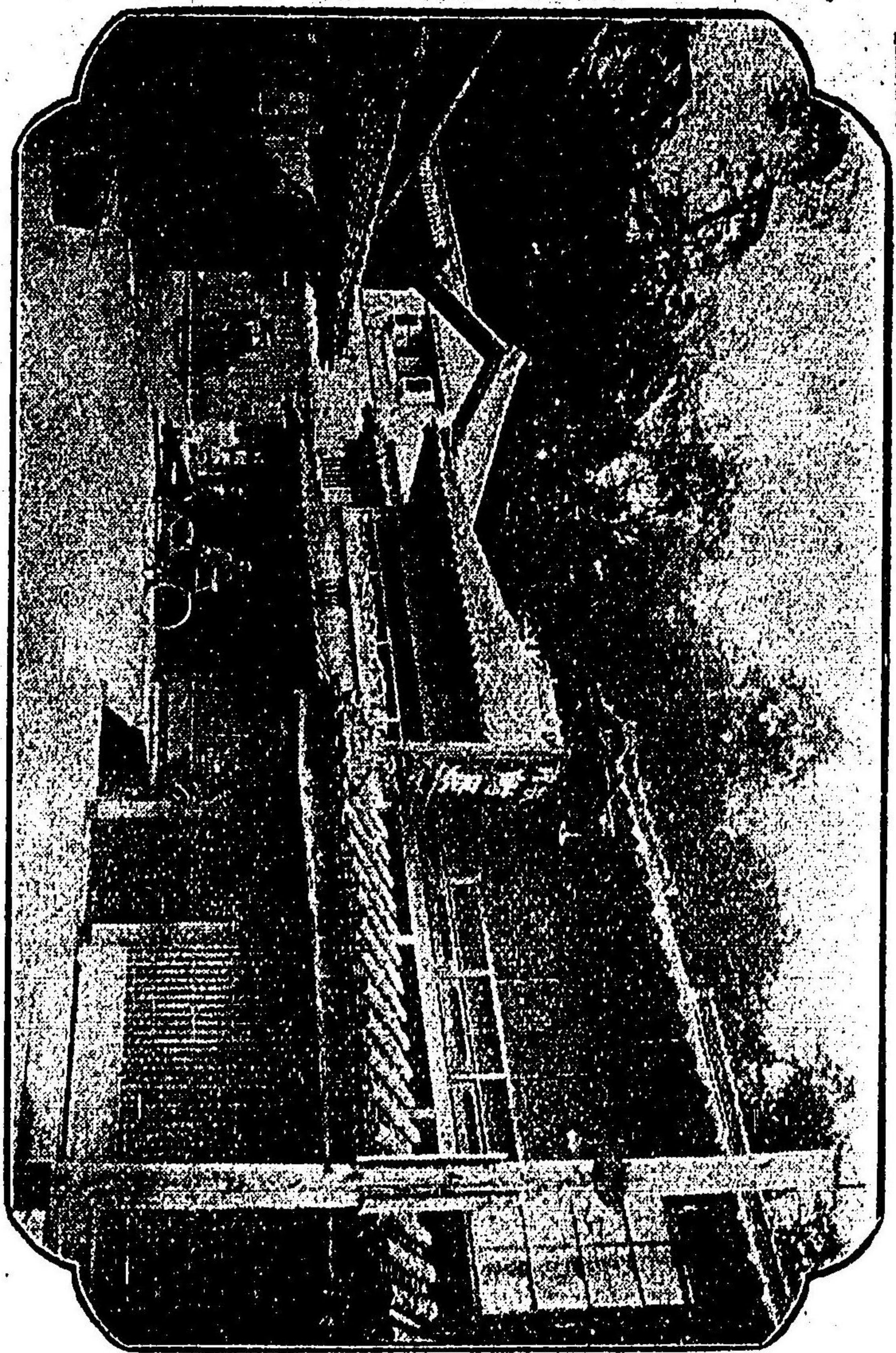
道後の温泉

261

839

道後溫泉場ノ外觀  
並ニ又新殿内部





樹屋旅館 圖電三三四

松山高濱間 五哩四十鎖  
 古町一番町間 三哩二十二鎖  
 松山郡中間 六哩五十六鎖  
 松山森松間 三哩五十一鎖  
 立花横河原間 八哩十八鎖

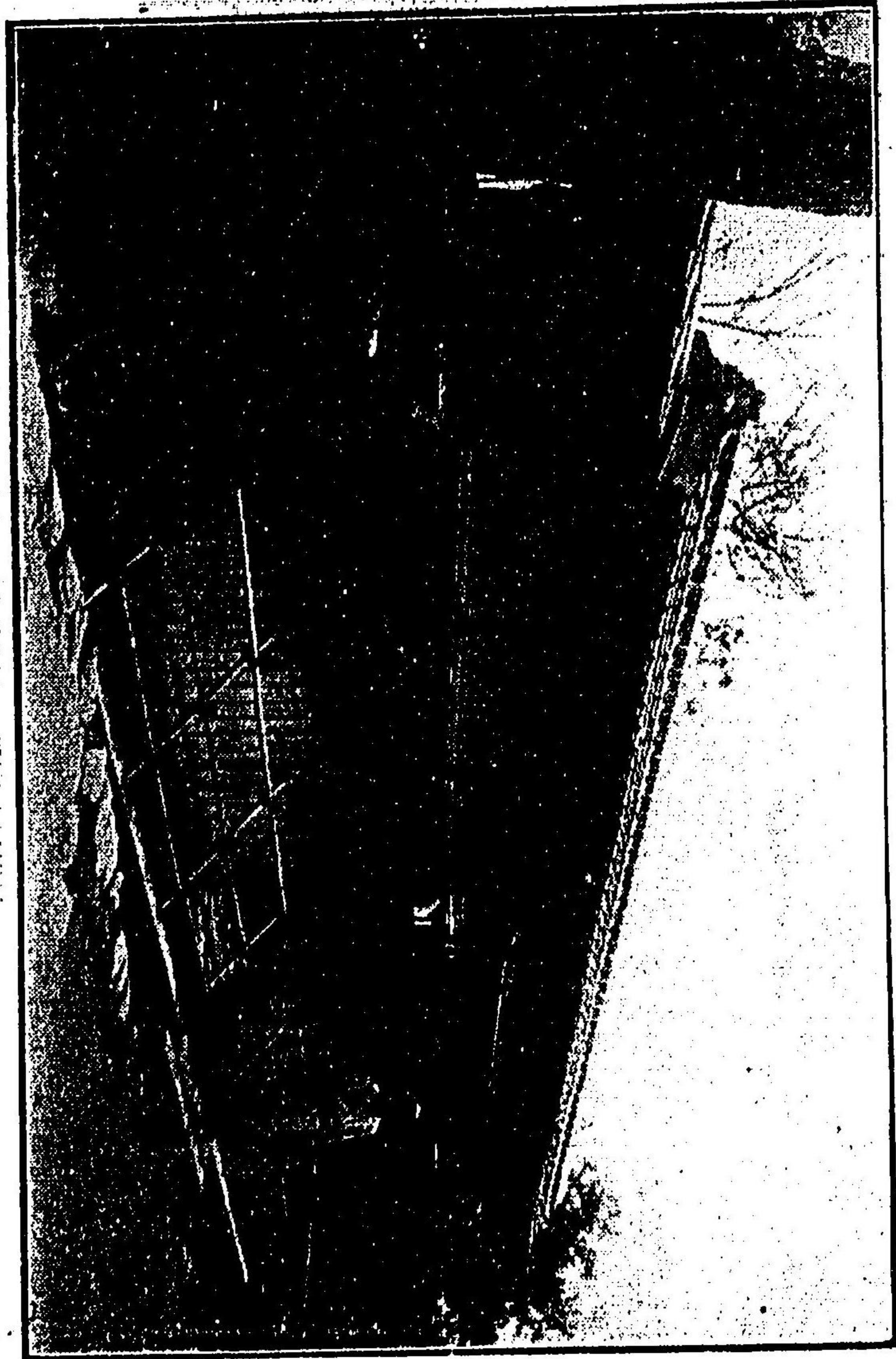


資本金壹百貳拾万圓

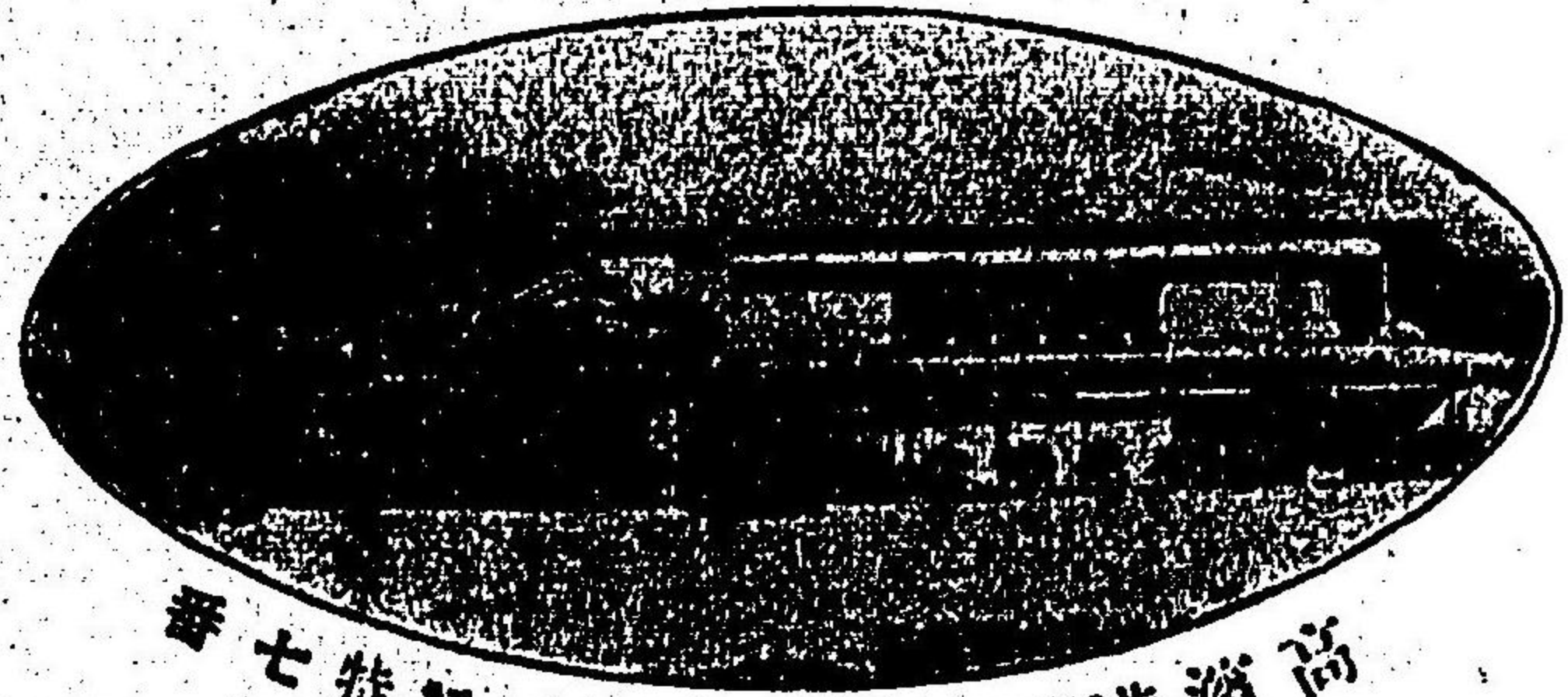
明治二十一年開業

# 伊豫鐵道株式會社

電 本 社 及 車 輛 課 用  
 松 山 及 保 線 課 用  
 運 輸 課 用  
 七 〇 二 番  
 七 〇 二 番  
 三 七 三 番



富屋別荘風庵



高濱港 ときざき別館電話七番



松山 ときざき旅館  
電話六七番

はしがき

道後の温泉は歴史の古きこゝに於て日本一の温泉である、湧泉の美なる、建築の壯麗なるこゝに於ても亦、確に日本一の温泉である、斯程めでたき日本一の道後温泉を差し置いて、潜上にも漫りに、熱海や伊香保や箱根や別府の温泉を彼是れと謂ふ没分曉漢の多いのが、癪にさはつてならぬので茲に「道後の温泉」に筆を染めて梓に上せたのである若し幾分でも此書によつて道後の温泉を紹介するこゝが出来れば吾輩の望は足るのである

四十三年の師走の暮

黒面郎識

特 61  
361

道後の温泉目次

日本一の温泉.....一

交通は頗る便.....三

温泉の由緒.....七

皇室と道後温泉.....七

三層樓の浴室.....七

温泉の初能.....七

光尚石の浴槽.....七

道後の町.....六

松ヶ町の遊廓.....六

道後の藝妓.....三

百軒の宿屋.....三

明治  
44. 1. 20  
内交



木賃宿……………三

最高の湯治場……………四

松山市……………四

名地舊蹟……………四

道後湯之町……………湯山村……………伊香村……………御幸村

神社佛閣……………六

道後湯之町……………道後村……………湯山村……………御幸村

名物名産……………六

道後温泉の分析……………六

# 道後の温泉

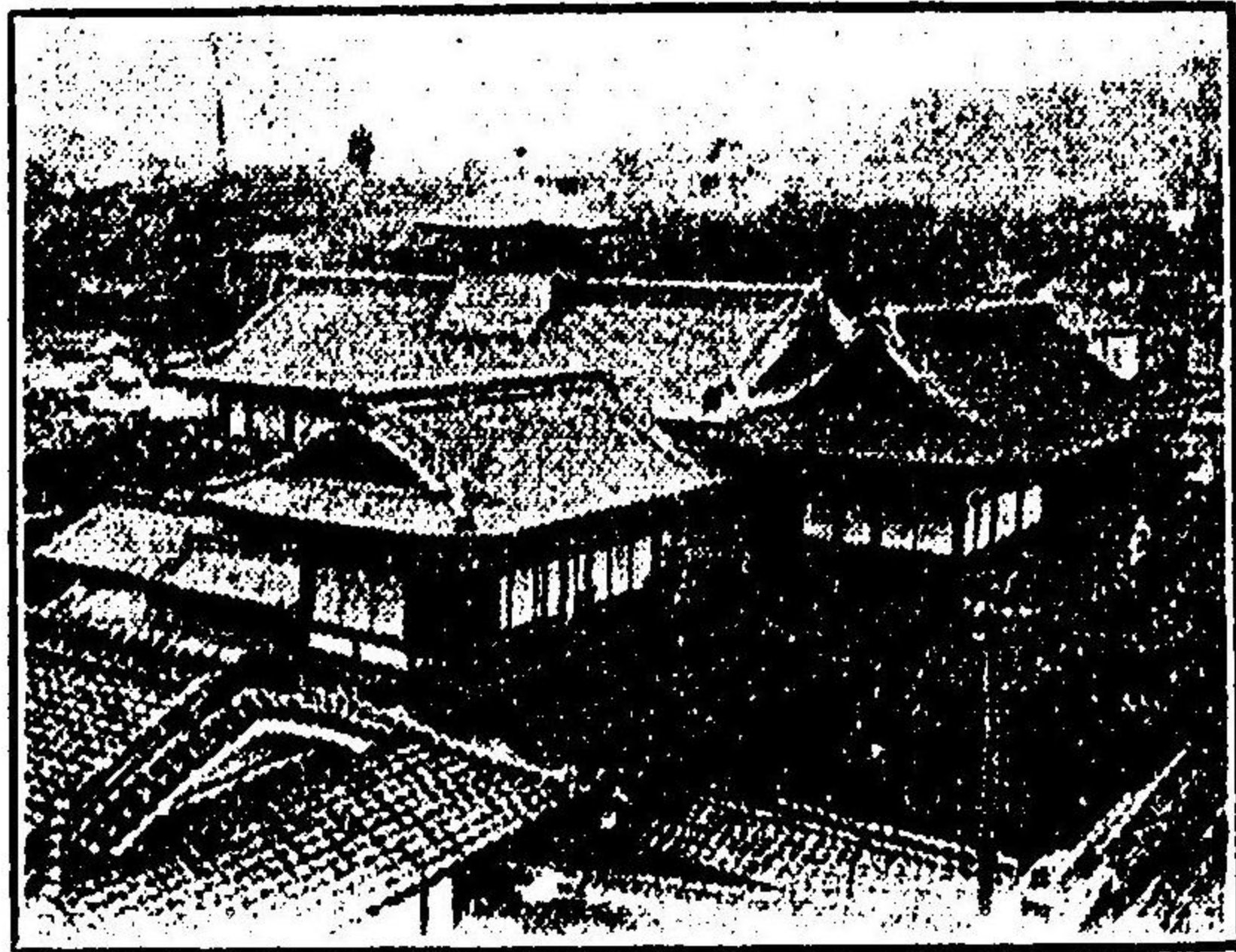
黒面郎編

## ◎日本一の温泉

その建築の壯麗なこと、源泉の清淨無垢なことを以て誰の口からでも先づ日本一の温泉との賞詞……感嘆詞を興へられる道後の温泉は真に日本一の温泉である。湯口から噴出る泉質の綺麗なこと、云つたら全く白湯のやうで清く澄切つて居て色も無ければ濁りも無い、そして其温度も熱からず冷たからず恰も春の日に山遊びをするやうな心地である、のみならず其浴室は底も周囲も花崗石で敷き、夫れを毎日一回づゝ掃除をして居るから他の温泉場などのやうに湯垢でヌル／＼滑つてトもすること迄つて轉んで尻餅を搦ささうな虞れもない、澄切つて瑠璃のやうな湯の中にザンブリ飛込んで身體の汚れを落した時の快さと云つたら誠、天國の甘露の湯に浸つた

如く心の垢まで取れ去つたやうな思ひがする。

その日本一の温泉は松山十五万石の御城下を東北に去る僅に十餘町、道後山の麓に沿ふて出雲岡を南に鷺谷を北に控へた温泉郡道後湯之町の中夾に在る、湯之町は戸數五百餘人口二千に餘る一市街で東北の二方に内海に瀕して交通の便も備はり松山からは汽車も通



道後温泉場全景

道後山、出雲岡の翠巒を負ひ石手川の清流は東南より西に走つて垢堤の緑となり、西は開ひて松山の平野と連り三百年の繁り深き勝山城と相對して居る、風光の明媚、幽邃なることは又温泉場として最も浴客の静養に適する所である。

然のみならず地は瀬戸

の絶間がない、彼の尾張名古屋は城で名高く、伊豫は道後の温泉で名を天

### ◎交通は頗る便

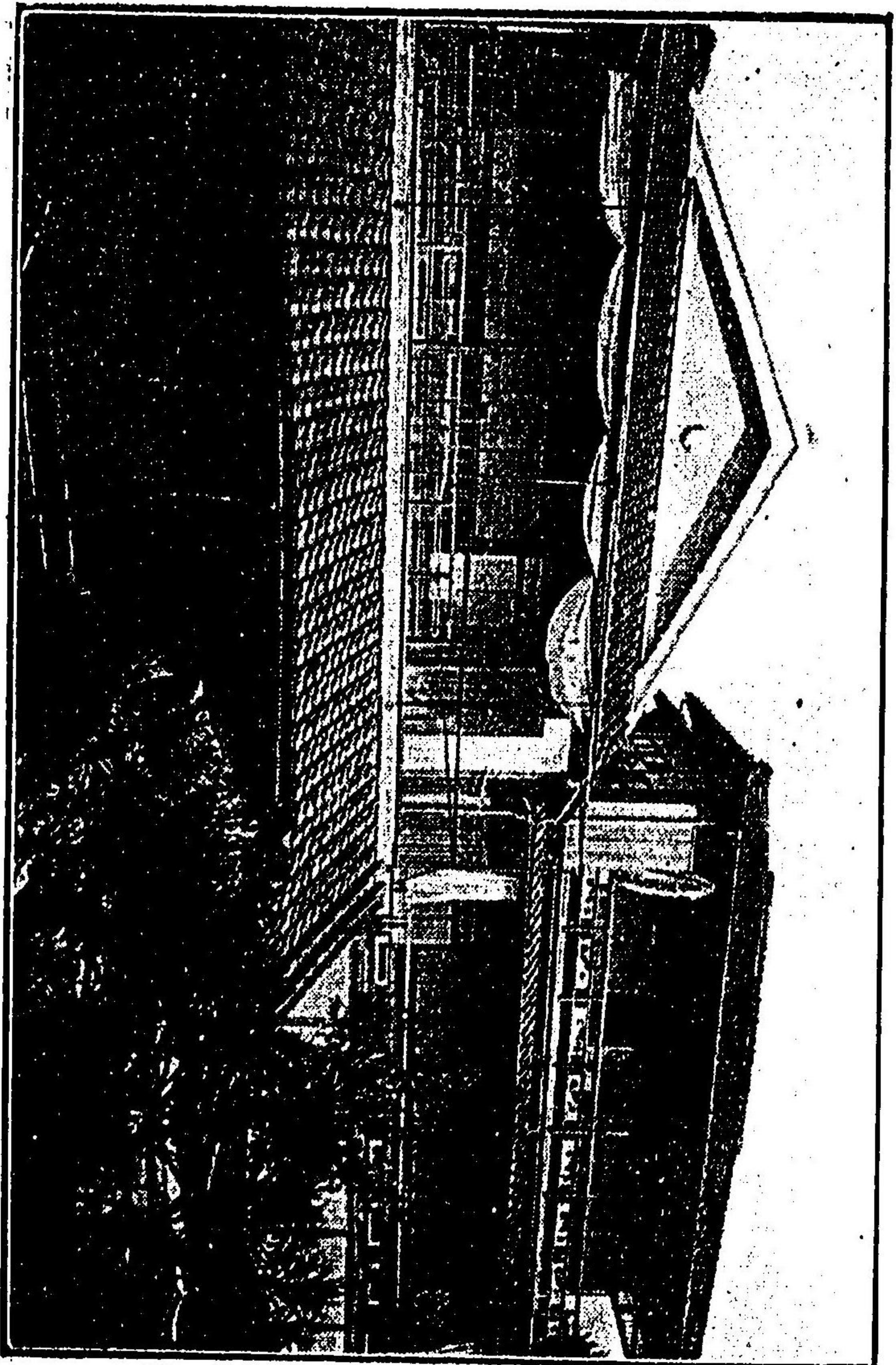
斯程名高い道後の温泉は伊豫の中央松山市に接續して居るので他府縣との交通は極めて便利である、東から来るにも西から来るにも汽船は日

ば所謂大阪内海線の汽船によつて午前十時に内海を發した船は細島、土々

名産温泉の花。  
木細工並ニ木菌  
細工各種製造販賣所  
伊豫道後湯之町  
清水庫太郎

\* 日數回高濱に寄港するので少しも不自由はない、大阪から汽船で來れば約二十二時間、高濱へ着く、大阪からは毎日午前の九時三十分と午後の四時と二回に船が出る、そして尙隔日に朝の十時大阪を出る門司行きの船も高濱へ寄港する、又九州方面から來る人なら





伊豫道後釜の湯前 梅木旅館

(5)

呂、佐伯、臼杵、佐賀關、大分、別府、守江等九州東海岸の各港を経て翌日の午後六時に高濱へ着く、それから流車で廣島まで来た人ならば毎日朝晝夕の三回双方から發る藝豫連絡船（宇品高濱間）によつて來るのが最も便利である、高濱へ船が着いたら棧橋を上つて鼻の先に在る伊豫\*で交通は頗る便利である。



高濱港棧橋及停車場

\* 鐵道高濱停車場に驅け込むと瀟洒たる列車が待つて居て松山へ運んでくれる、道後の温泉に入る客は古町驛から道後線に乗替ると高濱から僅に四十分足らずに道後に着く、亦高濱からは毎日午前に二回、午後一回の大坂行と午前と午後各一回の下り汽船が出るの

(4)

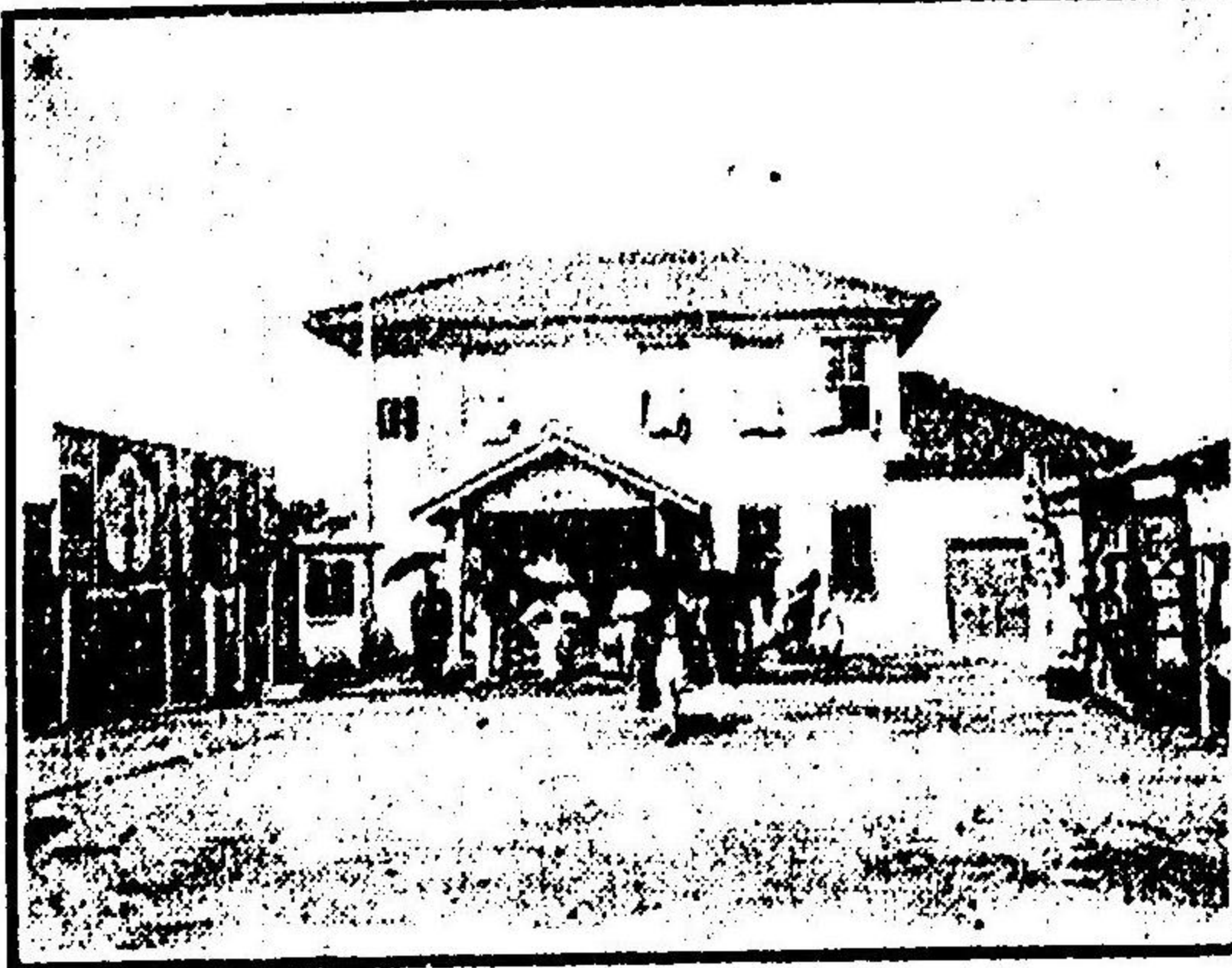


和洋御料理旅館 八百春樓道後支店

◎ 温泉の由来

日本は火山系に属して居て地震國だ云はれるだけあつて到る處に温泉が湧出する、著名なものばかり擧げても伊香保、熱海、城崎、箱根、中山、大聖寺、有馬、別府など數へ切れぬほどあるが、多くは山間に在つて行路險惡な或は海岸に偏して湧泉鹹味を帯びて居るか、温度も又熱きに過ぎ、冷きに失し湯口へ其儘飛込んでア、好い氣持ちだ肌は快きものは甚だ砂ない、彼の別府の温泉などは其泉量の豊富なることを以て近來俄に繁昌して浴客一ヶ年百万人以上と云はれて居るけれど、その湯は塩分を含んで居たり、濁りを帯びて臭氣を放つて居て道後の湯の如くに無色透明、瑠璃の如きものは無い、泉質の良好なることに於て道後の湯が日本一と稱せられて居るのであるからは實際温泉に入浴らうと思ふ人は先づ必ず道後の温泉に浴を試みるべしで若し然らざれば未だ以て温泉を語るに足らずである。斯の如く温泉として最も著名で良好な道後の温泉はソモヤ何時頃から湧き

初めたものであらうか、頗る古い、未だ人皇氏に至らぬ以前、地神氏の世に既に業に滾々として湧出して居たものであるらしい聊か神話めいて居るが古記に據ると地神氏の世に大己貴命、小彦名命の二柱の神が心を一にし力を戮して國家を経営し二手に岐れて普く秋津洲……即ち大日本……といふ猛威一片の神であつたから人々これを怖れて只管その怒に觸れざら



道後停車場

道後停車場  
 \* 全國を歴遊した、少彦名命は非常に慈悲深い神であつたから人間が病に罹つて苦んで居るのを見ると薬草を探つて服さしめ、又獸物や毒虫などに咬まれて苦んで居る者には呪文の法を教へて其苦みを救ふて居たが夫れに反して大己貴命は自ら劔を執つて他を制服するを執つて他を制服する

んことを之れ事として居た、ところが此二柱の神が各國を巡周して伊豫國道後の土地でパツタリ出會ひ給ふたが何しろ少名彦命は蒼生を憐み慈み給ふて居るが故に人民の歸服して従ふ者も尠くなかつたに反し大己貴命には怖れて誰も近づくものがない、此體を眺めた大己貴命は初めて自分の從來執つた方針が誤つて居て世の中は決して威武一片\* 命は大に愕き直に其所に湧き出て居た温泉を汲み取つて大己貴命の體を浴せしめた、すると不思議や忽ち息吹き返してパチリと眼を睜り一首の歌を詠じて後ち暫時假寝んかなと宣り勢ひ猛く側の石を踏んで起ち給ふた、と

伊豫道後湯之町  
**井門吳服店**  
 商號いごや

\* では治まるものでなく仁と愛どが武力以上の威力であることを悟ると同時に慚愧悔恨の情迫つて其處に卒倒して息が絶えたそれを見て少彦名

いふ其石は『靈の石』と稱して今も尚温泉の附近に傳つて在る。  
 固より未だ文字の無い時代の傳説を書き記したものであるから果して事實であるか、付うか其様な詮索は必要でない、兎も角も道後の温泉が既に神代に於て湧出して居て而して我國の温泉中最も早く人の入浴した\*

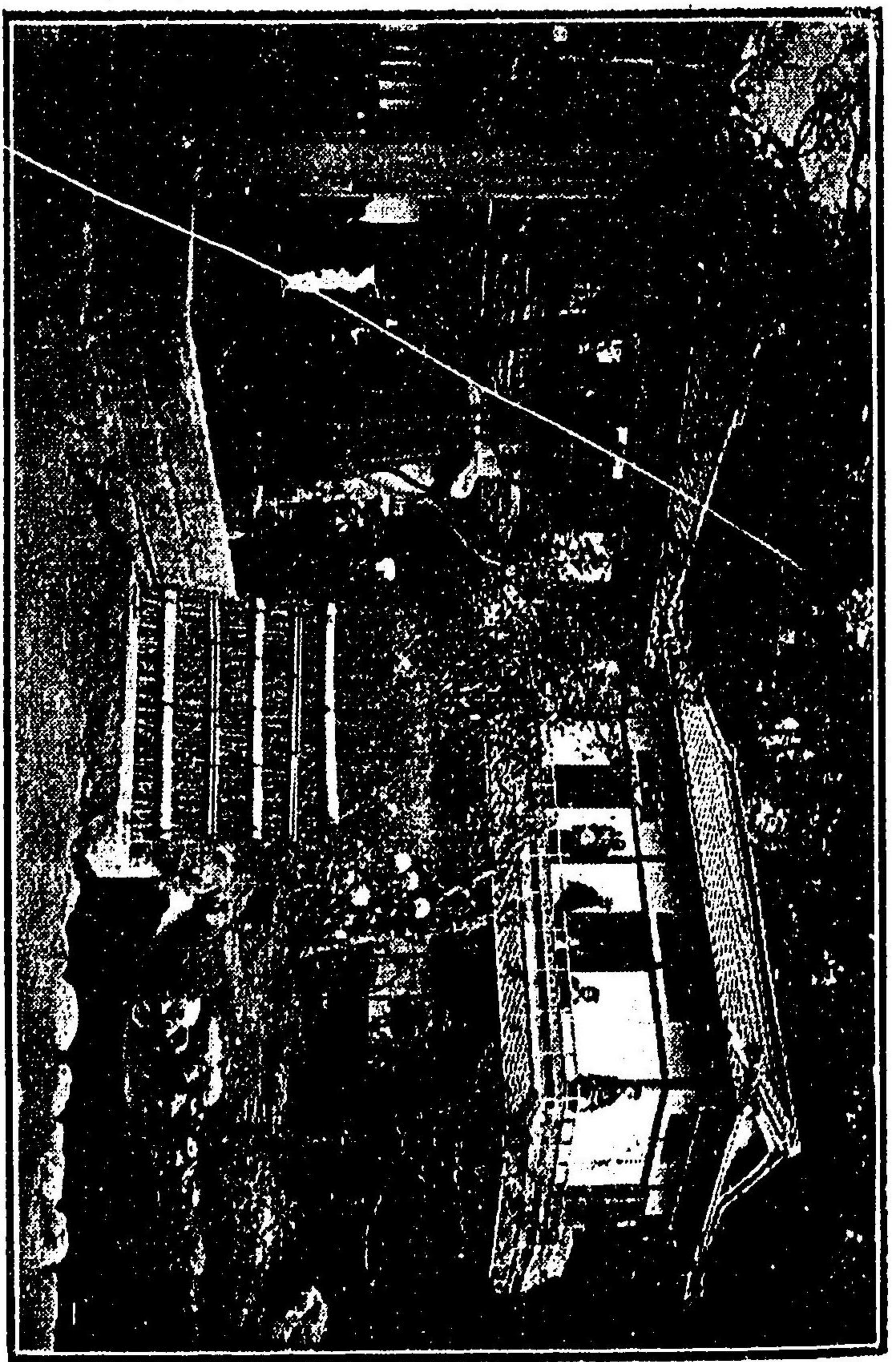


道後湯之町全景

◎皇室と道

後温泉

畏れ多いことだが道後温泉の歴史を飾るためには皇室との関係も書かねばならぬ、恰も昔日の武家が自家の系圖を重んじて清和源氏の



和洋御料理 望月樓

(11)



必ずしも道後温泉の現在を輕重するものではないが、然し歴史は歴史として又尊重すべき理由の存する以上は道後温泉の歴史も之を抹殺する譯には

いかぬ。

道後の温泉が既に神代に於て盛んに湧出して居たものであることは前項に述べた通りである、されば人皇時代になつてからも代々の帝が屢々此地に行幸遊ばされて温泉に御入浴遊ばされたもので人皇第七代孝靈天皇が後の細媛と共に行幸あらせられたのが初まりで第十二代景行天皇、后八坂入媛第十四代仲哀天皇、神功皇后、氣長足媛、第三十四代舒明天皇、后天豊財重日足姬、第三十七代齊明天皇、第三十八代天智天皇、第四十代天武天皇及第三十三代推古天皇の四年十月には聖徳太子も亦此地に行啓あらせられて湯之岡に碑を建て記念せしめられたなどは明に古書の記す處である、斯の如く屢々天皇を迎へ奉つた道後の温泉は従て全國に其名を知られ二名島愛比賣の國の温泉と云へば日本一の温泉として其頃から既に業に弘く世に知られて居たものである。

それから以後は相續く世の變亂に時の帝の駕を迎へ奉ることもなかつたが明治維新の革命後は泰西文明の輸入と共に海陸運輸の機關が備つたため道後の名は再び大に世に知られて貴紳高貴の此地に來るもの妙からず明治三十六年には東宮殿下を迎へ三十九年には閑院宮



道後湯之町本通り

\* 殿下も駕を枉げ給ふた、其他有栖川大宮殿下、小松宮殿下、伏見宮殿下、有栖川若宮殿下等も御入湯遊ばされ伊藤公や井上侯や土方伯、芳川伯、後藤男なども松山に來ると直に道後に宿を定めて靈泉の功德を受けて老餘の體を養ふたのである。

◎ 三層樓の浴室

温泉場の建築としては流石に日本一を以て誇るだけあつて其浴場の壯麗なことは正に天下無比であらう、湯之町の中央、冠山の翠容を南に控へて聳え立つ三層樓は恰も宮殿の如く三層樓上更に一間を架し大太鼓を吊るす、これは時報の大鼓であつて屋上には金屬製の鷲を置き名けて振鷲\* 貴の御方を迎へるところ平素は堅く閉鎖て開かない、

御旅館  
みつや事  
村上クラ

\* 閑と云ふのである、明治二十五年から二十七年まで三年の長日月と巨万の財を投じて建築したもので道後の温泉は即ち此一大建築物中に滾々として湧出して居るのである而して之を四區八室に區別して上中下男女の別を立てある、第一區は御湯殿と呼ばれた又新殿とも稱して最上等の浴室で高

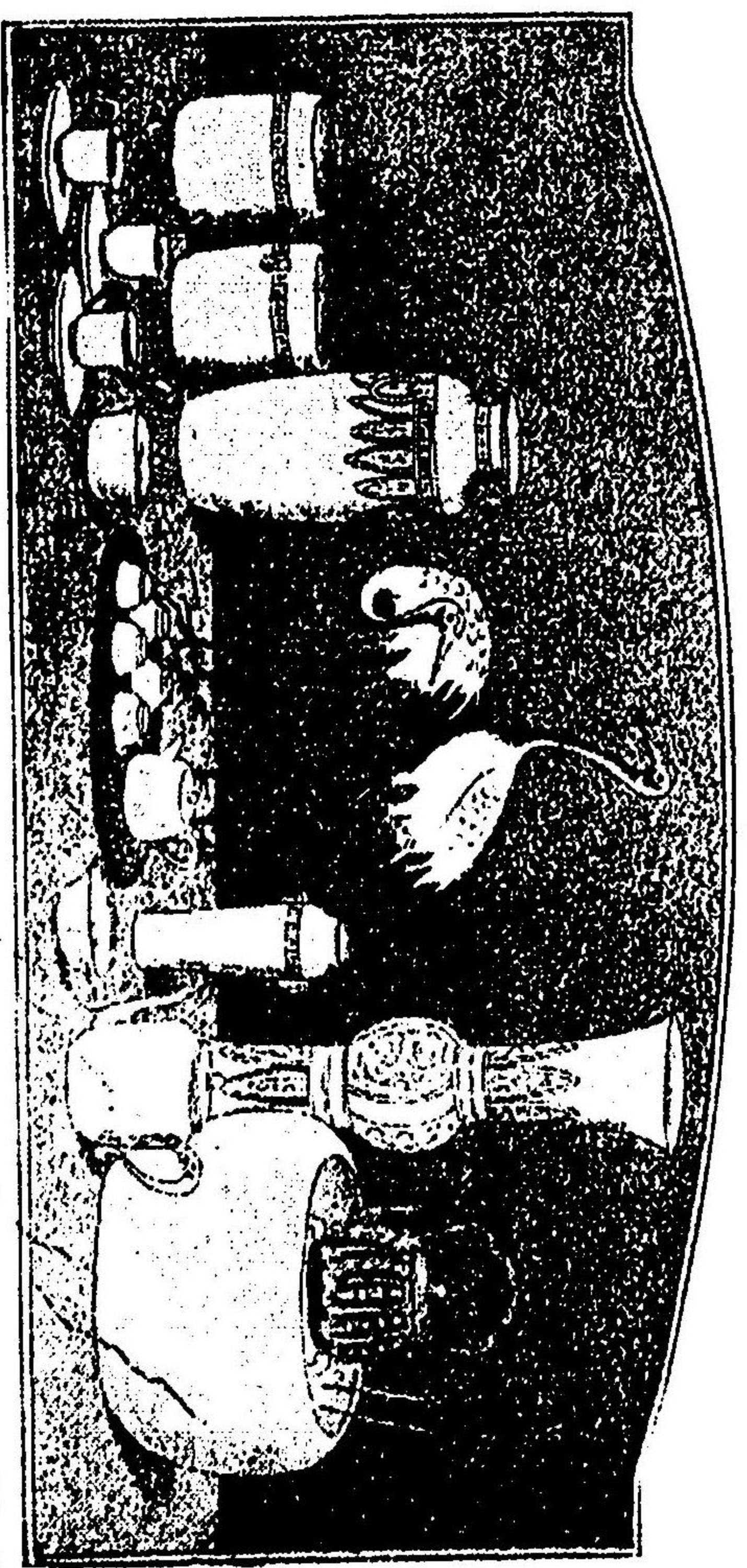
御入浴遊ばしたのも此室であつて常人の入ることを許さざる所である、恐らく天下の温泉場中高貴のために別に特別の浴室を設けてあるのは道後ばかりであらう……道後の人の誇つて居るところの又新殿と相隣つて第二區の靈の湯がある、靈の湯は男女の二室を有し脱衣場は共通であるから夫婦連れ、の浴客には都合の好いところ、  
 第三區は神の湯、  
 靈の湯も神の湯も共に二階と三階との區別によつて料金を定め浴客を休憩せしめて居る別府温泉の不老泉などよりも遙に其設備が完全して居るとの評がある、第四區は養生湯で男女の二室に分けてある浴槽の底は小さい眞



(湯族皇) 設湯御殿新又

遊製井回産特部砥豫伊  
 器 磁 黄 淡  
 (燒白々一)

○淡黄磁ハ愛媛縣特有美術的ノ物産ナリ



○淡黄磁ハ内外博覽會共進會ニ於テ優等賞牌ヲ拜受ス

賣販茶治宇撰精並燒六三産名  
 町之湯後道園豫伊  
 店 商 水 清

登録

道後名産



商標

温泉煎餅

一名湯梅  
道後湯之町  
罐詰製造本舖

玉泉堂

砂で尻をベツタリ砂につけるご好い心持だ、尙此四區八室の外にまつ湯云つて此所の湯の餘流を引いて市街の西端に下等な浴場がある、そして其まつ湯に接して癩病患者微毒患者等のために一個の樂湯と牛馬を洗ふ馬湯とが設けられてある、以上の外神の湯第一室に相當する女湯を別に新築せんこの議あり當路者に於て目下計畫中であるから近き將來に於て之が建築を見るであらう、各區入浴料金左の如し、

△靈の湯 一等 三階 貳拾錢、二等 二階 拾錢、半券 四歳以上拾貳歳以下 各半額。

尙靈の湯には蒸湯(止湯又は買切湯とも云ふ)あり一時間につき四人以下金貳圓、五人以上一人を増す毎に五拾錢を加ふ

△神の湯 一室 一等 三階 拾五錢、二等 二階 拾錢、三等 階下 五錢  
△全三室三室 一等拾錢、二等六錢、三等貳錢、以上何れも半券は半額

神の湯一室に限り蒸湯一時間六人以下參圓、一人を増す毎に參拾錢  
△養生湯 本券壹錢、半券五厘

神の湯二三室浴券拾枚以上を一時間に買求すれば拾枚につき金拾五錢  
養生湯一時間に貳拾枚以上請求する時は拾六錢に割引





# 温泉の効能

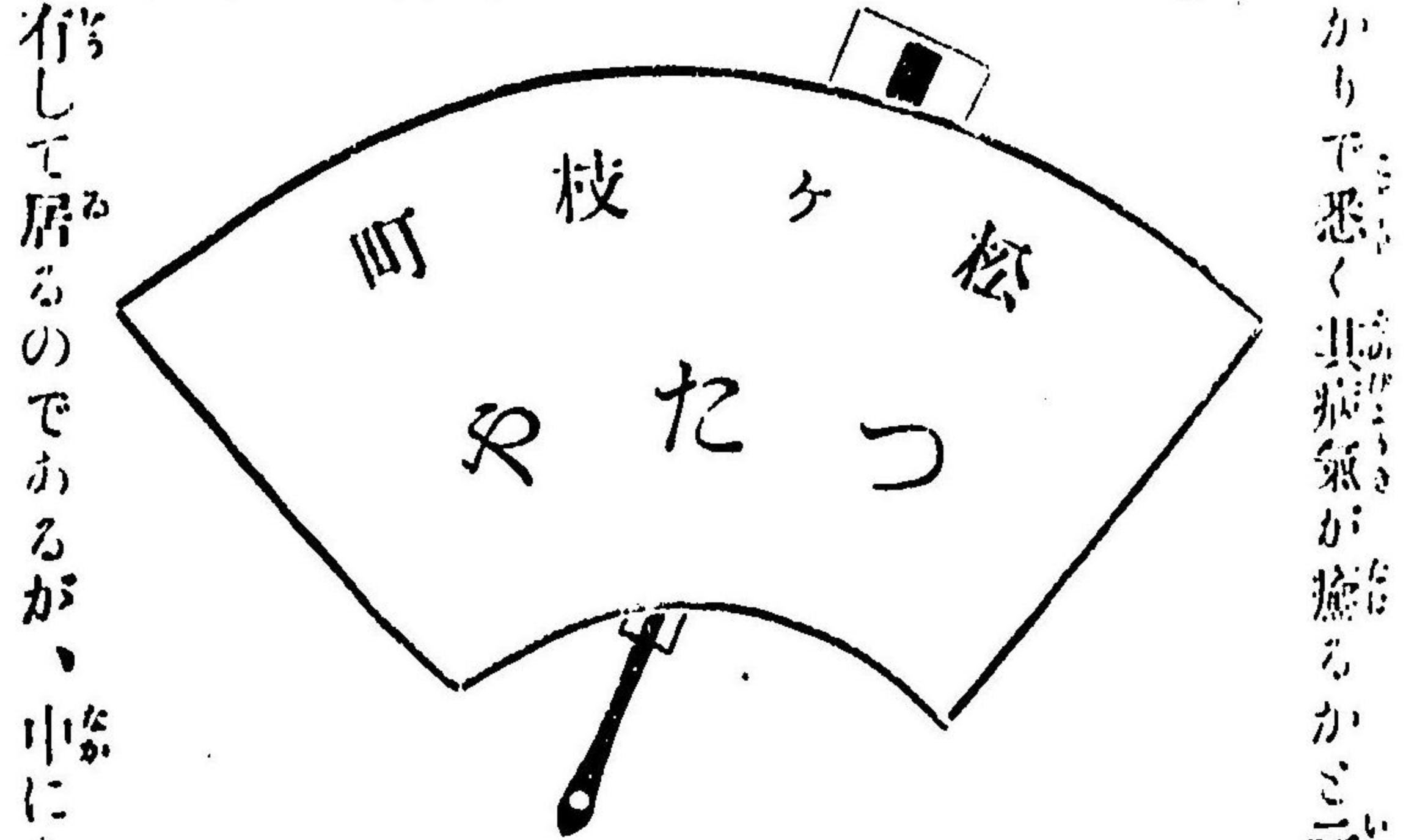


道後温泉の神湯の上

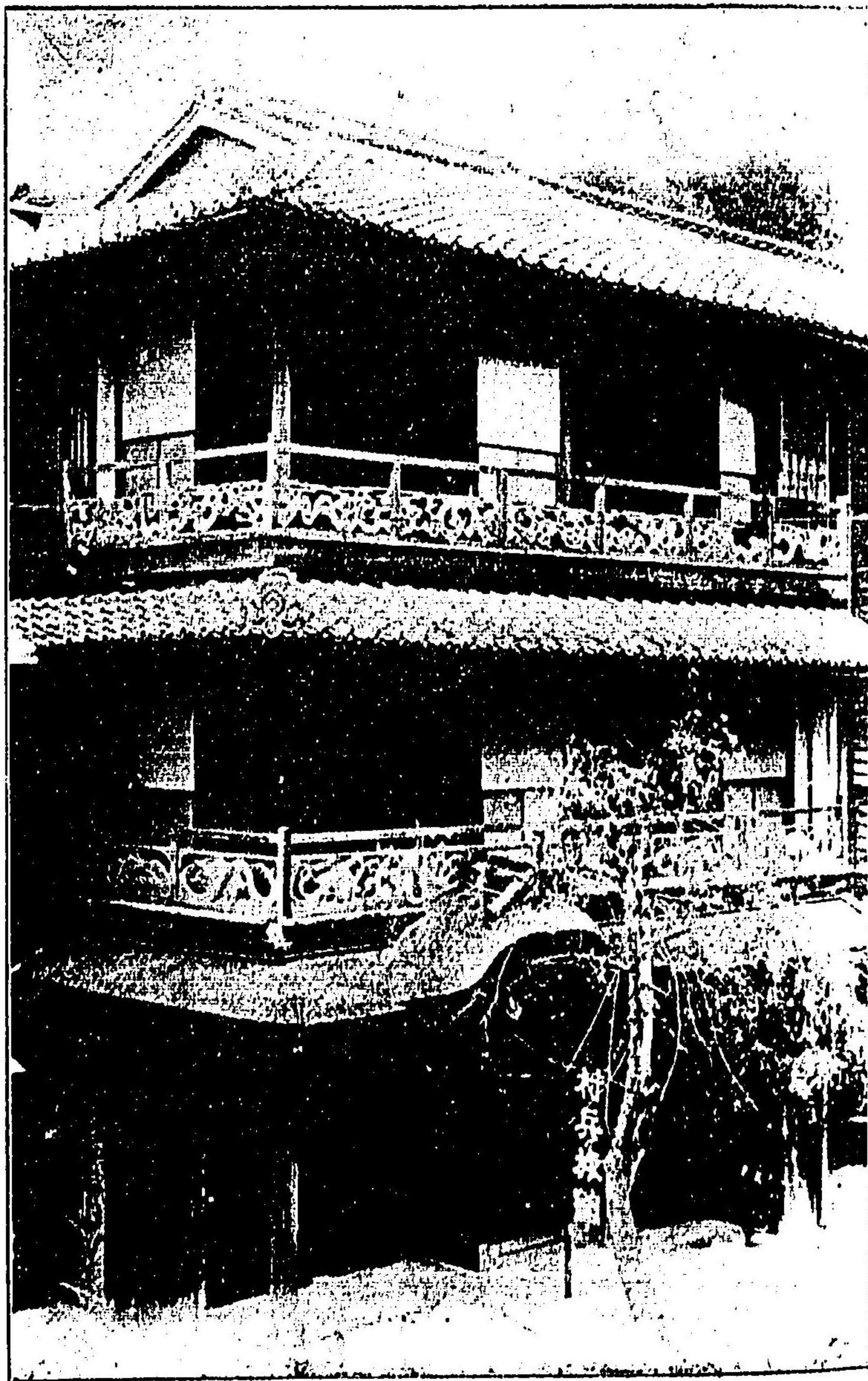
温泉が普通の洗湯と異つて世人の歓迎を受けるのは其成分に醫治的効力が含まれて居るからで、從つて温泉に浴する人も單に湯に浴るといふ以外病氣の保養といふことが主たる目的となつて居る、然ればこそ湯治的に効用を述べ立てると賣地の能事ほどの効力があるけれど、併しソレなら

\*稱して何處の温泉は何病に効顯があるとか何の病氣には何處の温泉が一等宜いとか云つて温泉の選擇をするのである、とすれば温泉に於ける醫治的効用如何は其必要條件であらねばならぬ、所で道後の温泉の醫治的効力は如何であらう、之を分析の結果に照して學術

ば温泉に入浴たばかりで悉く其病氣が癒るか云ふこと然ういふ譯には不可ぬ、若しソんな旨い工合に病氣が温泉ばかりで癒らうものなら夫れこそ世界のお醫者さんが同盟軍を組織して全國の温泉を破壊して了うであらう、夫れは兎も角道後の温泉は内服外用の兩用とも多少の効用を左の



だけの病に効能を有して居るのであるが、中にも 癩麻質斯、皮膚病、婦人 宮病、便秘、ザツと之れ 疾、腺病、梅毒諸症、子 充血、萎黄病、肺炎、痔 下痢症、下腹充血、肝臟 臟炎、腹膜炎、歇私的里 生殖器病、腦病、慢性腎 症、肺病、氣管支加答兒 臟病、皮膚病、神經衰弱 慢性胸膜炎、肋膜炎、心 加答兒、慢性癩麻質斯、 ある、貧血症、慢性胃腸



(23)

の牛殖器病には驚くばかりの効顯があるさうで、永年つれ添ふて居る夫婦がドウしたものが子が出来ぬ、百万の富を積んでも夫れを譲るべき子が無くては樂みも何にもない、モ一働くことも可厭ぢやこれからは全國の名所舊跡でも見物して悠々浮世を遊んで暮さうと、\*

◎ 花崗石の浴槽



道後伊佐爾波神社八幡馬場

\* ドツサリ金を懐中に捻込んで家を飛び出した夫婦者が、偶々道後の湯にやつて来て遊んで居る中に妊娠して喜びかへつて俄に儉約を仕だしたなと云ふ例は幾らもある、それから病後の衰弱などには大に良いといふことである。

印入手拭  
印入洋手拭  
印入風呂敷



染手拭  
製造卸商



伊豫

道後

高松岩藏支店

蜜柑や柿を買ふにしても能く熱て赤い皮の美しい疵のない見かけの良いの  
を選ぶのは人情である、ナニも皮を食ふのではなく肉を食ふのであるから  
皮や色やはドウでも宜い、唯中の肉さへ美味ければ善さうなものである  
が人情はドウも然はいかぬ、矢張り皮の綺麗な色の美しいのに先づ手を出  
したがるものである、夫れと同じく如何に温泉が美しく、無色透明の水  
のやうであつても其浴槽が不潔で觸るとスル／＼滑るやうでは何だか心持  
が悪くて、入浴る氣にならぬ、別府の温泉は其湯の量が豊富であることを  
以て日本一の温泉地と誇つて居るけれど、其湯の不潔らしいこと夥しく、  
白くドロ／＼濁つて居るのを見ると何だか癩病や梅毒の微菌でも居りさう  
に感じられて、僕などは一寸飛込むにも躊躇する、それは掃除の不行届で  
ある上に一々入浴料を徴ぬ開放主義であるがため、誰れでも彼れでも勝手  
自由に飛込むからである、此点になると道後の温泉は乞食に對する大名は  
どの差がある、其泉質の清浄なばかりでなく浴槽の清潔なこと恐らく天下  
比なしであらう、靈の湯一の湯やの綺麗なことは勿論、最も浴客の多い料

金の無い二の湯三の湯でも四方悉く花崗石で壘んで、それを毎日丁寧に磨いて居るから垢の氣などは薬にしたくも附着居らぬ湯は絶えず新陳代謝して居るから常に澄切つて底の底まで明かに見え透て居る、眞に穢れを交へぬ温泉らしき温泉でザンブリ飛込む身も心も一遍に浄められる\*



道後松ケ枝町遊廊  
 \*やうな心地がして實に爽快な感じがする、加之に其湯は熱からず冷たからす湧き出たままて人身に適するといふ結構な湯で、他の温泉のやうに冷水を混和ねば入られぬといふのは大きな違ひである

◎道後の町  
 これは結構な温泉の松山からは絶

えす流車が通ふて居て停車場を降ると直ぐ町の入口である、鯉魚が樂しげに游泳して、八百奉樓支店の屋根が逆さまに影を落した放生池の汀を北に折れ、心もち爪先上りになつた市街を突當ると道後郵便局がある、そこから又東に折れて呉服屋、雜貨店、宿屋などの軒を並べた中を通つて\*賑ひで夏には納涼所も設けられる、こゝから北に

## 御旅館

道後温泉警察前  
三原屋事

### 友近善六

\*突當ると温泉場である、流石に日本一の温泉だけあつて其建築の立派なことは正に田舎者の膽を奪うに足る、その温泉場を中に圍んで四方に軒を列べた三層、二層の旅館は即ち浴客……湯治客を迎へるの設備が整つて居る南に聳えた冠山の頂には湯神社を奉祠し毎年十二月の初子祭は道後第一の

察分署で南東のグラ／＼坂を上ると黒門がある、  
 此松ケ枝町の遊廓は此黒門を東に這  
 入ればよい、その  
 黒門を横目に眺め  
 て南に進めば八幡  
 さまの鳥居前に出  
 る、八幡さまは道  
 後の町を中心にし  
 て附近三ヶ村の土  
 産神、伊佐爾波神  
 社と申し奉る、こ  
 こから再び東南\*

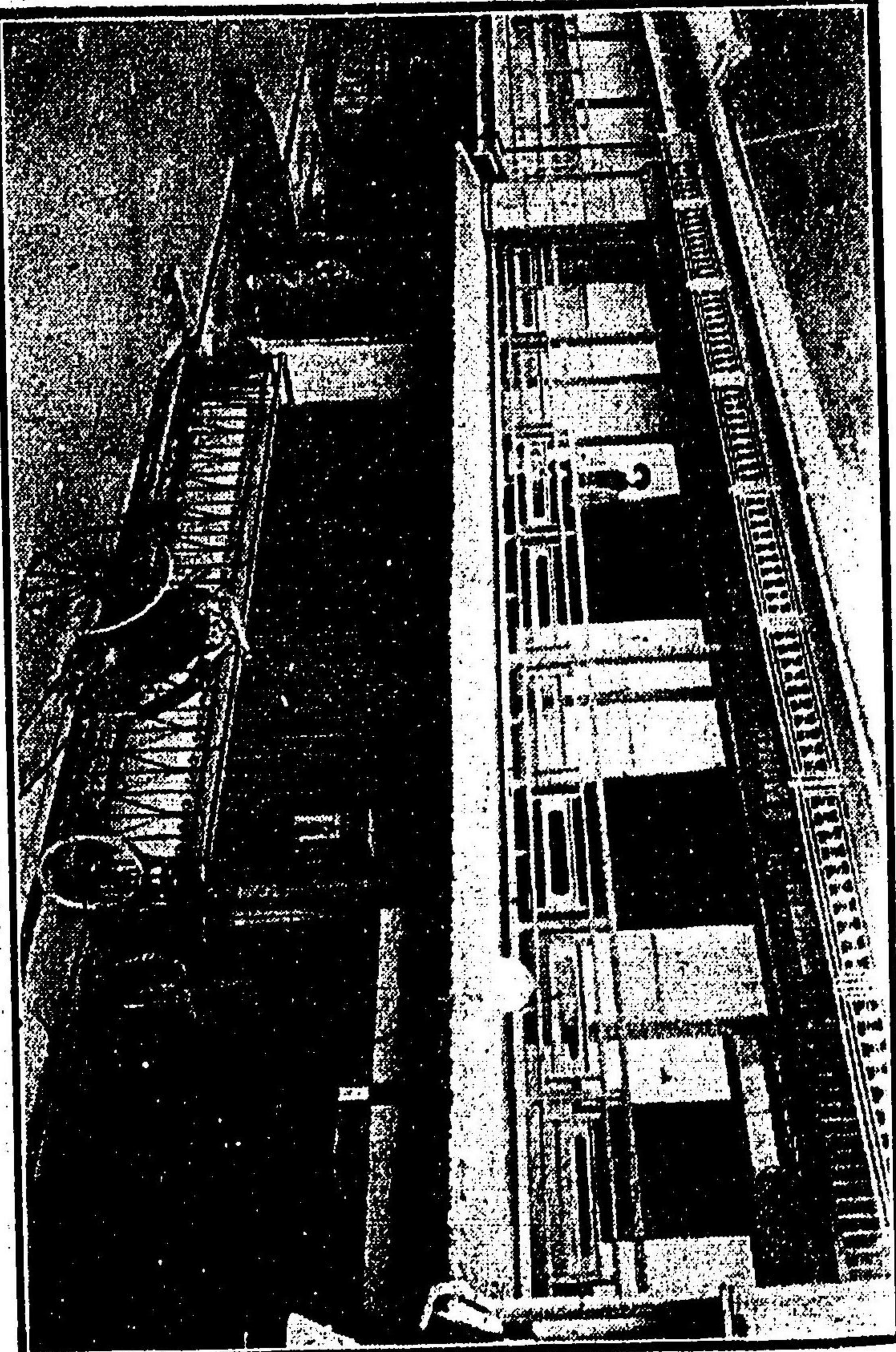


(む臨を館樂聚りよ口入北) 園公後道

湯治場には宿屋がなかつたならば湯治客の足は止めら

◎松ケ枝町の遊廓

歌舞の菩薩の鎮座ましま  
 \*に進めば義安寺や石  
 手寺に行ける、西に坂  
 道を下れば停車場で、  
 公園は冠山と相對した  
 南方の湯月城趾にある  
 道後の町はザツと斯な  
 風に作られて居る。



伊豫道後 大紋樓 (29)

○小間物

○化粧品卸



伊豫道後湯之町 富田喜平

溫泉石鹼

發賣元

れない、遊女屋が無かつたならば旅客が一夕の旅情を慰めるに事を欲がう  
 故を以て湯治場には必ず遊女屋が附隨して居る、別府でも然うである、伊  
 香保でも然うである、大聖寺や山中などの如き遊女屋の無い所には之に代  
 用すべき女が澤山旅宿に抱へられてある、道後には松ヶ枝町といふ一廓が  
 あつて二十幾軒の遊女屋が掛行燈を列べて居る、明治五六年頃までは十軒  
 の茶屋と云つて市中の各所に散在して居たものであつたが、文明とやらを  
 丸呑にしてオカシな理窟に中毒した無粋な知事さんが遊女屋を市中に散在  
 せしむることは善良な風俗を害するとか何とか云つて遂に山手の高處に集  
 めて了つた、松ヶ枝町は即ち此處なので幾十の遊女が装ひ凝して浮れ男の  
 魂を有頂天外に飛ばせて居る、道後の遊女は唯に枕席に侍つて一夜の情に  
 後香の別れを惜ませるのみならず三味も弾けば歌も謳ひ、酒席の興をも添  
 える手腕を兼備へた所謂二枚といふ重寶な二種藝妓で轉ぶばかりの専門娼  
 婦は僅に十幾名を數へるばかりである、何しろ温泉といふ天然の良薬に朝  
 夕肌を浸して居るおかげで梅毒などいふ忌はしい病氣は甚だ妙いやうであ

るから安心して一夕の旅情を慰めることが出来る。

### ◎道後の

### 藝妓

道後には松ヶ枝町といふ別世界があつて普通一夜の酔を散ずるには事飲がぬだけの機關が備はつて居る、けれども彼れは籠の鳥である、松ヶ枝町といふ大きな\*控へて居る、道後には常に五十名内外の藝妓が各々陣を構へて敵兵の襲撃



(松の植指御下殿子太皇) 岡公後道

\*一の籠の内ではこゝろも少しづつ、もし囁りもして人の心を喜ばしめやうが旅館の二階に寝轉んだまゝ庭の梅ヶ枝で囁る聲を聞ふとするものには不便である、是非松ヶ枝町まで出掛けて行かなければならぬとなる。大に迷惑を感じる者があらう、此飲点を補ふためにチャンと藝妓が

を待つて居る、敢て田舎藝妓など輕蔑し給ふべからず随分凄い手腕を振ふて都人を易々と組敷き腹の底の腸まで絞り上げたといふ話柄もあり、ソツと騒いで軽く浮かして面白く遊ばせる手取りもある固よりお望みごあらばお金次第でお脚も揉まう、お腰も擦りませう、お國元まで御見\*

0                      0

## 旅 館

---

## 久 萬 屋

\* 送りのお供もせうごいふ親切者も少くはない、瑠璃のやうに澄み切つた温泉に飛込んでザブリ一風呂浴で、旅中の汗を洗ひ流して胡座をかいて、美しい藝妓のお酌で一杯きこし召し膝を枕にコロリ横になつて『笑つちや嫌だよ羞しながら、岡惚れしましたよ此の花に... 見れば十年の旅の疲れ

**大**  
責任店正札  
保險店

**保險證**

若物品記入之通り相違無  
事弊店ハ責任ヲ以テ  
保險仕候也

明治四拾 年 月 日

小樽市大樽町  
小樽商會  
責任店正札店  
電話 百三十六番

殿

責任店正札



(86)

も必ごと一夜に忘れて了うであらう、道後の温泉には此方面にも決して不目由を感じさせないのである。

### ◎百軒の宿屋

何處でも湯治場には宿屋が多い、道後も亦その例に漏れず殆ど全戸數の七分の一は宿屋である、温泉場を取圍んだ厩樓、\*から仮りに其三分の一を旅の人として年々三十万の旅客が道後に集まつ



道後冠山

三層樓の大旅館から間口一間半奥行三間客室二つ位ひの木賃宿に至るまで大小數へ上げて見れば七十幾軒……百近くもある宿屋は何れも皆この温泉に身體を洗ふ湯治客のために設けられてあるのである、道後の住民を除いて尙一ケ年百万人以上の浴客があるのである

(87)



# 和洋御料理

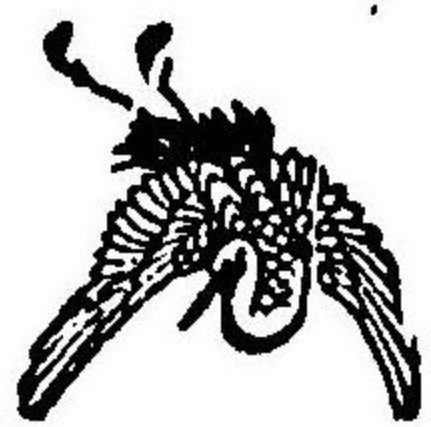
松山市一番町

本店 玉留樓

電話長三二三

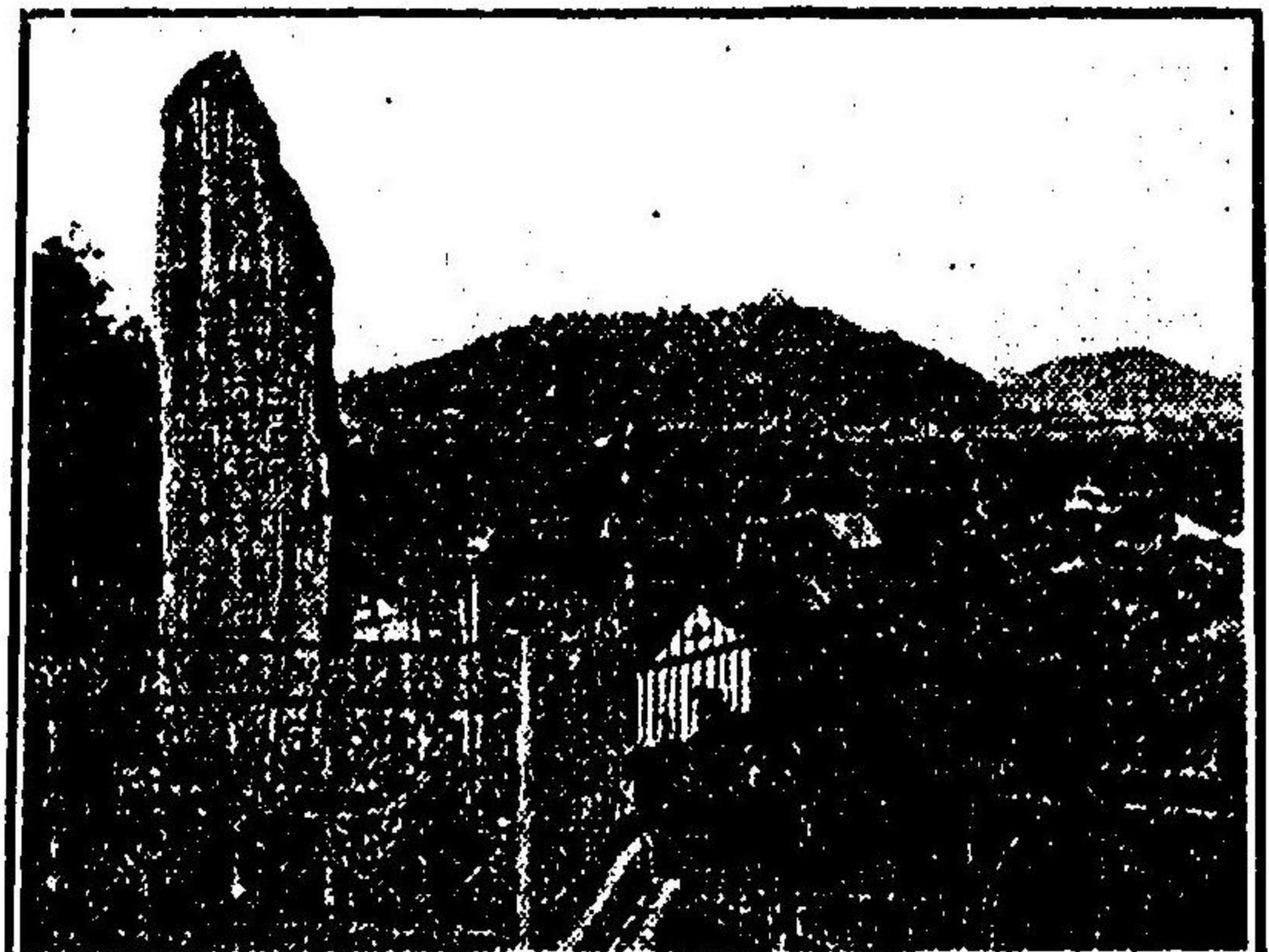
道後公園内

玉留支店



て来る勘定である、この三十万の湯治客の中には王侯あり貴紳あり商人あり農夫あり四國遍路もあつて貴賤貧富いろくの階級の人が集るのであるから一日數圓を要する一等旅館の必要もあれば二十銭か三十銭で済む下等宿の必要も生ずるので、此等各種の旅客を迎へるために道後の宿屋は貴賓會といふ同盟組合を設けてソレ／＼相當の設備を整へて居る、木賃宿については別に説明するとして爰所には普通旅館の待遇振りを述べて見やう。温泉場を中心にして其周圍に建列んだ旅館は何れも二層三層の立派な上等旅館で、木賃宿は夫れ以外の方面に散在して居る、同じ上等旅館の中にも又それ／＼一等二等の區別もあるのであるが今は客室の設備とか家屋の建築とかの差であるから先づ總括して之を旅館として説明することゝする、旅館宿では旅客一人に對して一室を供給し何か女中が付添ふて世話をしてくれることは一般の旅館と大なる差異はないが後の旅館は比較的宿泊料が安價で別府の温泉などに比へると事實に於て木賃宿よりも廉いくらひ又或地方の旅館の如く茶代や心づけの如何によつて待遇に等差をつけるな

ごと、云ふそんな輕薄な不丁見な宿屋は一軒もない、  
 重なる旅館は鮎屋、茶  
 金、梅木、岩井屋  
 みつや、村兵、野  
 本、白石屋、岩田  
 川吉、すし元、常  
 盤館、角半、島屋  
 三原宿、俵屋、久  
 万屋などである、  
 貴賓會の規定せる  
 宿泊料は數等に分  
 れて居て家々で多  
 少づゝ違ふけれど  
 も先づ大体に於て  
 方法が立てられてあつて一日僅に二十錢内外で済ませることも出来る、固



道後振鷺園内温泉泉碑

◎木賃宿

道後の木賃宿は別府の  
 木賃宿などは大に趣  
 きが異て居て所謂普通  
 の木賃宿なのである、  
 夜具と副食物を供給  
 して幾干の宿料を請求  
 し、室は奥越雜居の入  
 り交りで頗るお手輕な

より木賃宿にも上中下の階級等差があつて最上等  
 もあれば夜具など  
 も相當の品を用ひ  
 めでもないが多  
 は雜居制度で万事  
 が御免未なことは  
 勿論、用が有るか  
 らとて女中を呼つ  
 けて使ひさせるな  
 ごと、云ふ自由は一  
 寸利かぬ、單に飯  
 を食ふて一夜を眠  
 ると云ふだけで\*  
 高五十錢まで分れて居る。

清 酒

かち  
とま  
と  
か  
ち  
特約店

山澤勇次郎

一人別室の設け  
 \*其飯も一日幾干で自分  
 で買ふて夫れを炊て貰ふ  
 と云ふに過ぎぬのである  
 其かわりに普通の宿屋に  
 泊つたやうに茶代だとか  
 女中への心づけたとか  
 氣兼ねや氣苦勞をする心配  
 もなければ頗る氣樂に安  
 値に氣永く滞留が出来  
 のである、これも木賃料  
 が各等に區別されてあつ  
 て最低一日五錢位から最

◎ 最好の湯治場

別府の温泉は近頃  
賣出しの流行兒で  
別府は湧泉が豊富  
で宿屋は木賃制度  
で手輕なごの評判  
であるが道後の温  
泉は湧泉の量こそ  
妙いが泉質の良好  
なこと、湯治場と  
して四圍の事物の  
適當なことは到  
り比較的頗る安價である、のみならず別府の地は風俗甚だ淫靡であつて



道後振鷲園内古湯釜

\* 底別府などの比では  
ない、別府の温泉は濁  
りを帯びて臭氣が甚だ  
高いに反し道後の湯は  
無色透明で僅に微臭を  
感ずるばかり、而して  
旅宿の如きも別府の木  
賃は不自由であつて而  
も甚だ高價であるに反  
し道後の旅館は旅籠で  
あつても別府の木賃よ



自宅で出た 道後の湯

○道後温泉塩は道後温泉を自宅にて製し得べき原質なり。

●効能  
一、痲瘋質斯。梅毒。痛風。神  
經痛。胎毒。起る頭痛。膿疱。水瘡。癩  
癧。淋病。痔病。癩病。疔瘡。疥癬。  
溜飲。必高。滯。消。不。常。使。脹。滿。水。  
腫。脚。氣。中。風。脊。髓。病。子。病。血。行。怠。慢。中。毒。諸。病。  
其の白帶下。月經閉止。子病。血行怠慢。中諸病  
其の詳細は効能書に記せるを見よ。

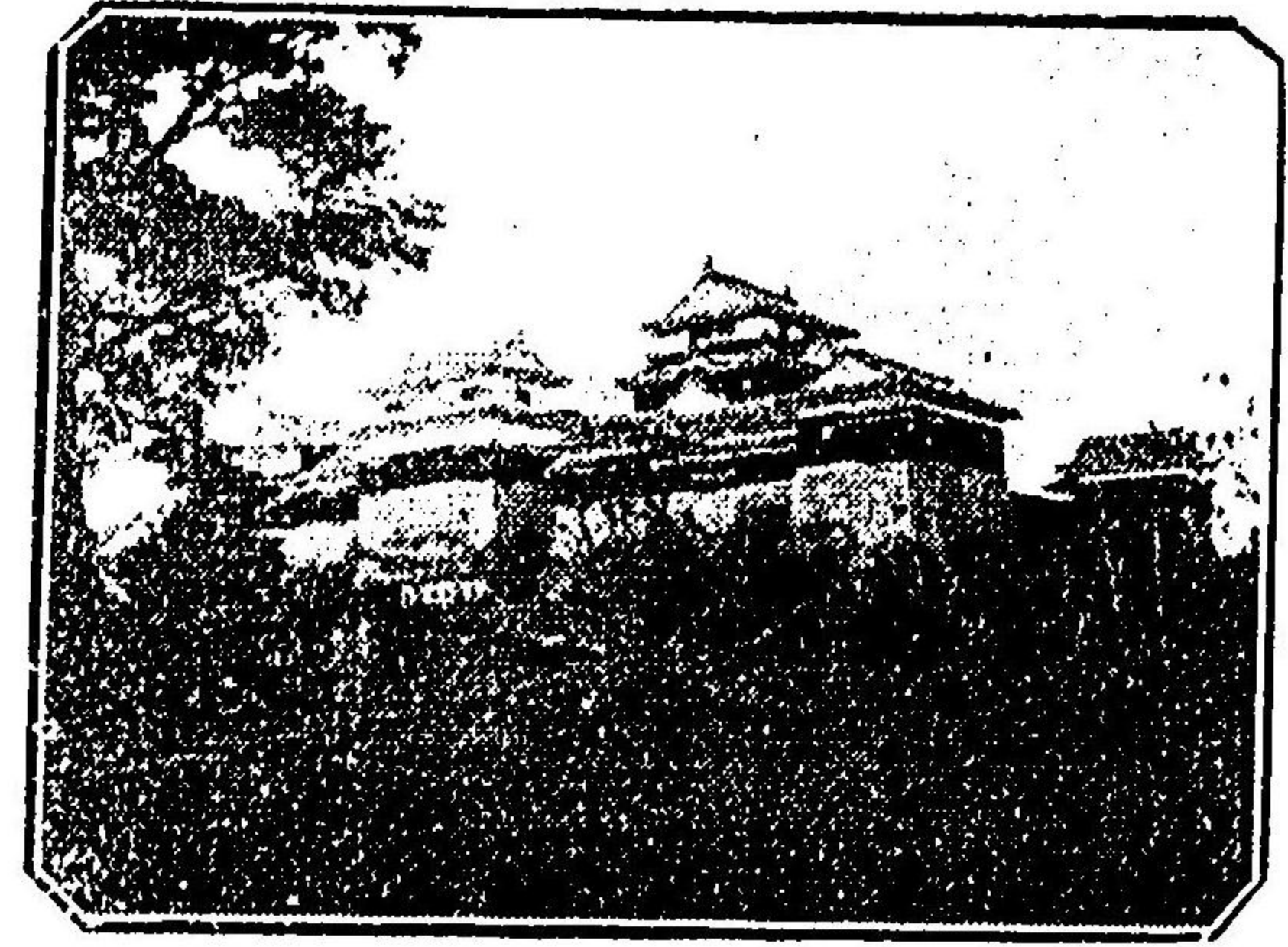
先價壹瓶拾錢  
並に  
道後温泉案内記  
道後温泉山來記  
道後温泉染色々  
道後温泉繪圖種々  
名所寫眞及エハガキ  
道後多産竹細工  
道後温泉染色々  
道後温泉繪圖種々  
其他名産物種々  
伊豫國温泉郡道後  
湯之町二七六番  
今井神泉堂  
振替(大阪二三六六番)  
口座(東京六四四二番)

木賃宿の如きは疊の上の男女混浴と云ふくらい殆ど男女野合の媒介場たる  
 御があつて良家の子女を伴ふて一ヶ月の湯治に病後の養生を試みやうとか  
 秋の夜永を一家うち連れて湯治場に遊ばうとか云ふには頗る不適當で或  
 大なる悪感化を子女に及ぼす虞れがあるが、道後の地は寧ろ論語、孟子的  
 に作られてあつて遊廓の如きも別府は町家の間に散在して居るが道後は松  
 ケ枝町といふ一區廓内に集めてあつて彼等營業者は自由に町内を歩くこと  
 すら禁じてある、然ればと云ふて一にも二にも孔子や孟子的に鹿爪らしく  
 三指ついで言いはねばならぬやうに窮窟なかと云へば決して然うではない  
 頗る暢氣に開放されたる中に一種整然たる秩序が保たれて正しい風儀が道  
 後の天地を支配して居るのである、故に子女を伴ふて來るも何等悪感化を  
 受くべき惧れもなければ若い夫婦や若い男女が單獨で行つても敢て窮窟を  
 覺えるといふこともない、老人にも子供にも男にも女にも、夫婦連れにも  
 猫身者にも夫れくの趣味と快味のある湯治場としては最も適當な土地で  
 ある、況んや四圍の旭光は幽邃閑雅で病餘の静養などには最も適當なるに

於ておや。

◎松山市

道後と松山とは所謂唇齒輔車の間柄で、離るべからざる關係を有して居る、松山の名が天下に知られると共に道後の名も亦從て天下に知られ、道後の温泉が人口に膾炙せらるれ、の收容地として數千の露兵が入り込んで居た、それ



(松山公山城) 松山城

は又從て松山も傳へられて居るのであるから道後を語る以上は松山も亦一通りは紹介して置く必要がある。  
 松山は道後から十五六町西南の方つて高く聳ゆる勝山城を取巻いて一大市街を形造つて居る、伊豫の國の首府で愛媛縣廳のあるところ日露戰役當時には俘虜以來松山の名は世界の

隅々までも響き渡つて美しい城と、美しい道後といふ温泉の在る所として  
 知られて居る。

其美しい松山は、今から三百餘年前、即ち慶長の八年春は彌生の花の頃、  
 賤ヶ嶽七本鎗の

一人加藤左馬介  
 嘉明が松前から  
 移つて勝山城を  
 築ひてから開か

れたもので三百  
 年の茂り深き城  
 山は市街の中

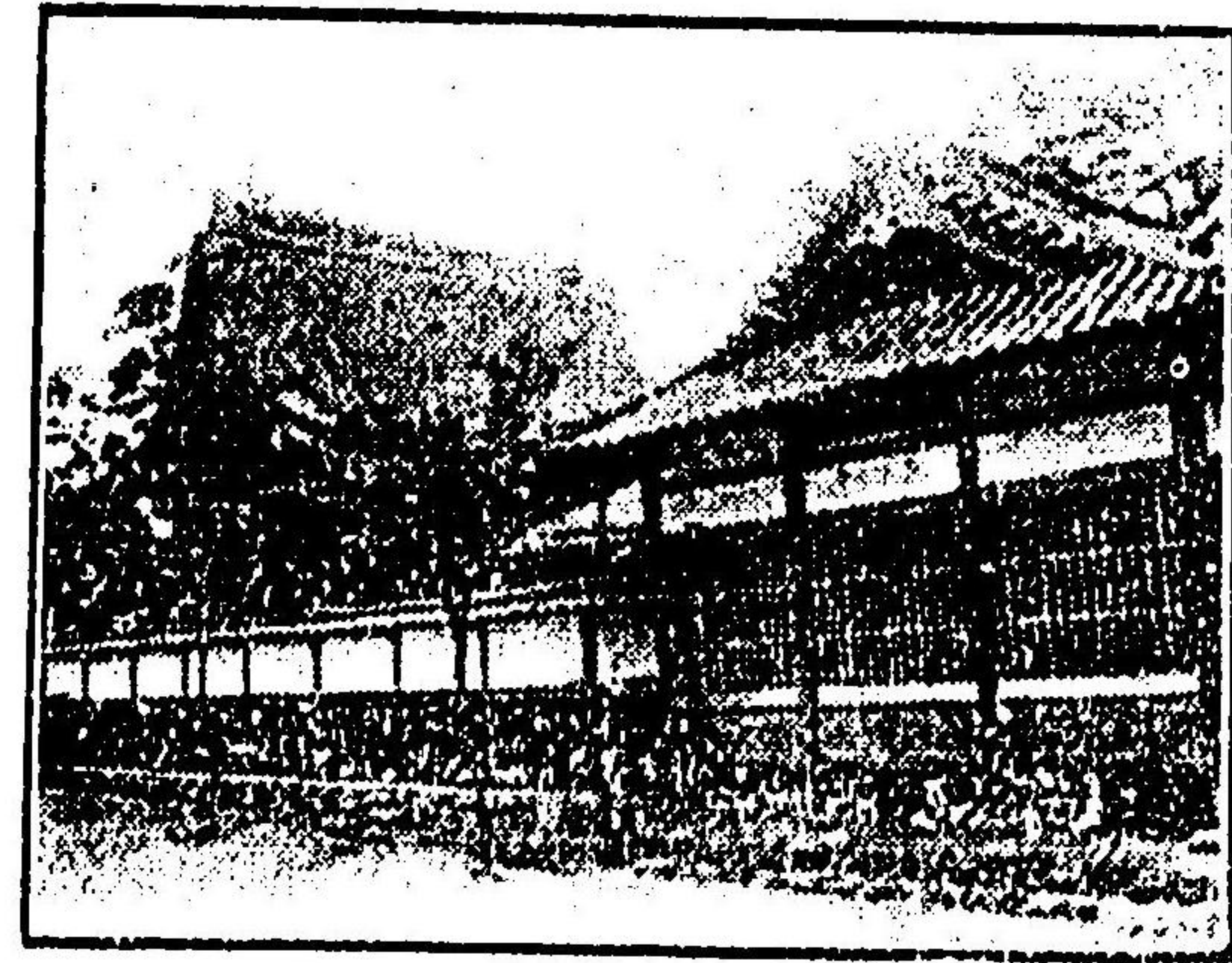
り市街を取巻いて尙高濱、郡中、横河原、森松の各方面に火車を走らせ、  
 海には三津、高濱の兩港あつて日々數艘の漁船が出入する、先づは交通の  
 便も備はり、商業も可なりに賑ひ、工業としては彼の有名な伊豫絣が盛ん

## 旅 館

# す し 元

伊豫鐵道がぐる  
 輕少乍ら陸には  
 口四方に餘り、  
 戸數は一万、人  
 市に放つて居る  
 しい光彩を松山  
 重の天主閣は美  
 \* 尖に聳えて三

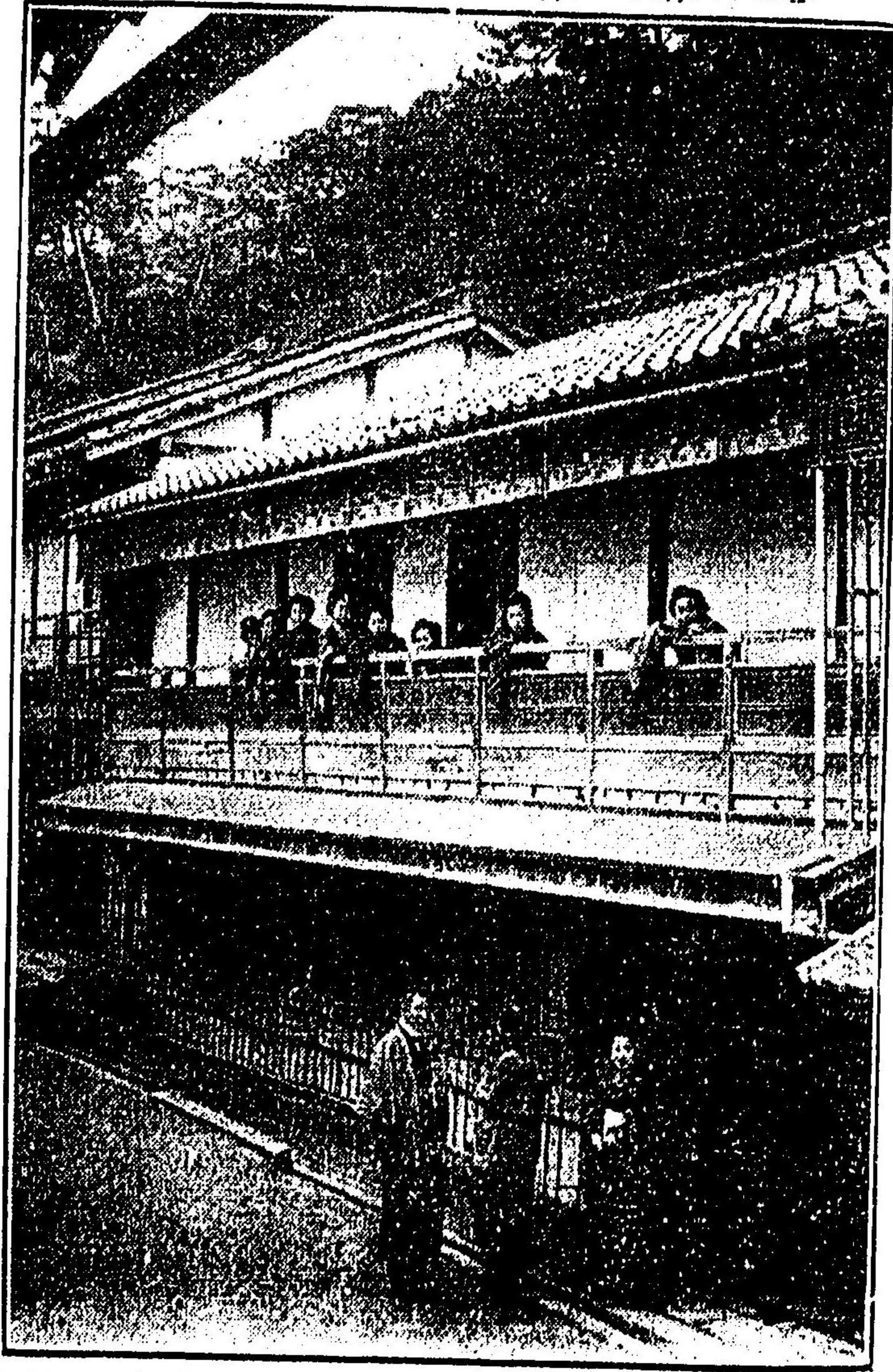
に織立てられて居る、松山は實に好い處である、城山は素より松山を飾る最  
 大の景物ではある  
 が、道後の温泉の  
 あることは松山を  
 してより一層よい  
 處たらしめて居る  
 況んや重信の清流  
 五色の濱の松風、  
 梅津寺の海水浴、  
 道後公園附近の勝  
 地は春夏秋冬を通  
 じて遊子の眼を喜  
 ばしむるに足る\*



道後出雲岡湯神社

\* ものがあゝる、而も氣  
 候は溫和で夏暑からず  
 冬寒からぬ天與の樂土  
 であるのである。  
 然れば松山には觀光の  
 遊子を迎ふるの設備と  
 して旅館も料亭も土地  
 相應に美を盡して遠來  
 の客に不自由を與へぬ  
 だけの準備が整ふて居  
 る、娛樂場としては劇  
 場がある、寄席がある  
 場がある、砥部焼、五色

伊豫道後松ヶ枝町大岩樓



素麵などがある、重なる官公衙の所在地は一番町に愛媛縣廳、裁判所、出淵町に松山市役所、松山警察署、専賣局、松山製造所、荳町三丁目に松山稅務署、三番町に松山郵便局、小唐人町に縣立松山病院がある、尙ほ松山城は市の經營で、松山公園となし、何人も隨意登山することを得るか。

# 旅館

靈の湯前

川吉

※ 旅人は是非とも一度は登臨するがよい、全國に於て松山城位完全に昔の建築物が保存せられて居る處は殆ど稀なりとは万人の認むる處である。

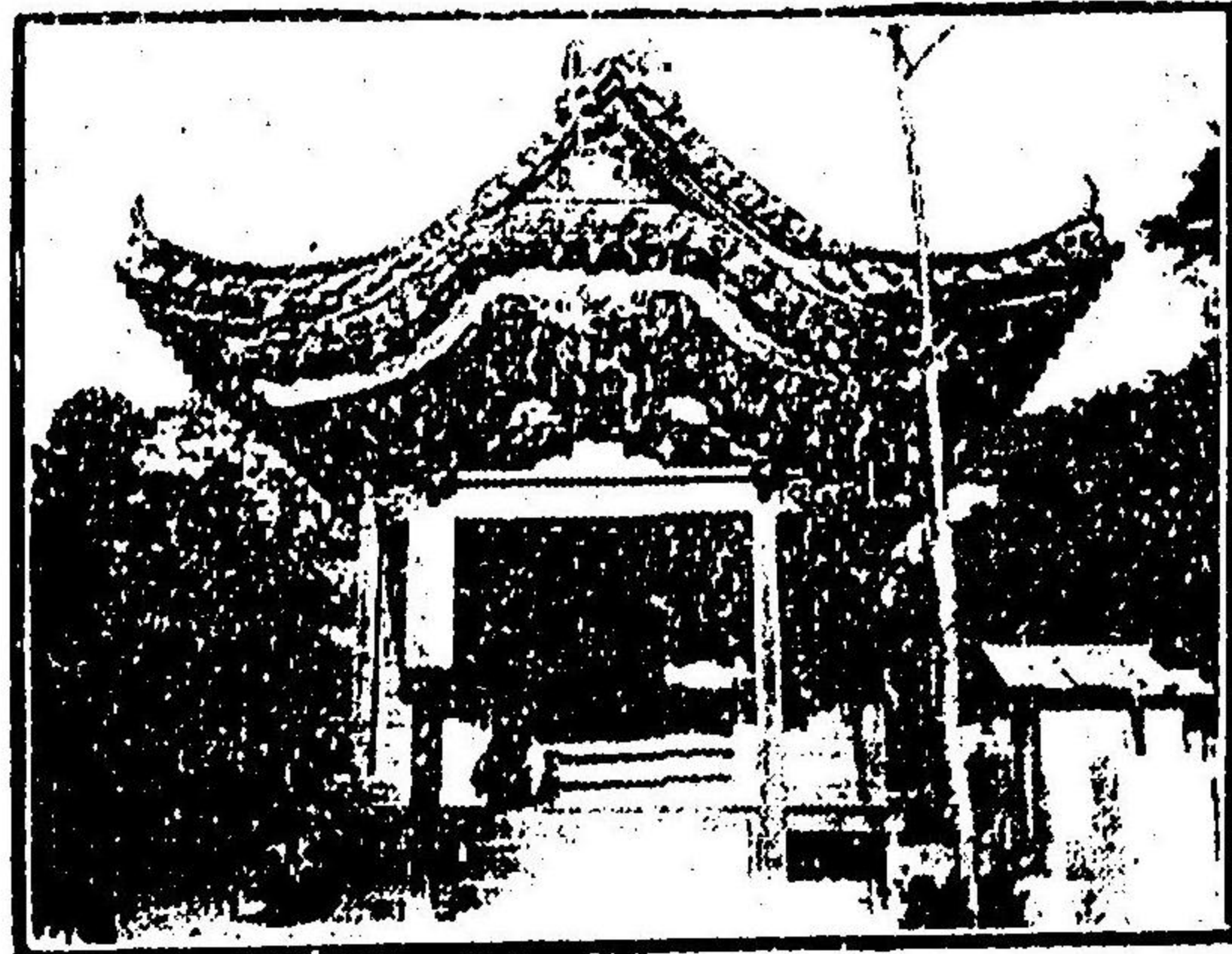


名地舊蹟

温泉場を中心として附近の名所舊蹟を左に紹介しやう

◎道後湯之町

▲熟田津の古蹟  
往古道後の地に三ツの港があつて諸國からの大小船船が盛に碇泊輻湊が神社の南方谷合、開田津（祝谷の邊）であるが星移り

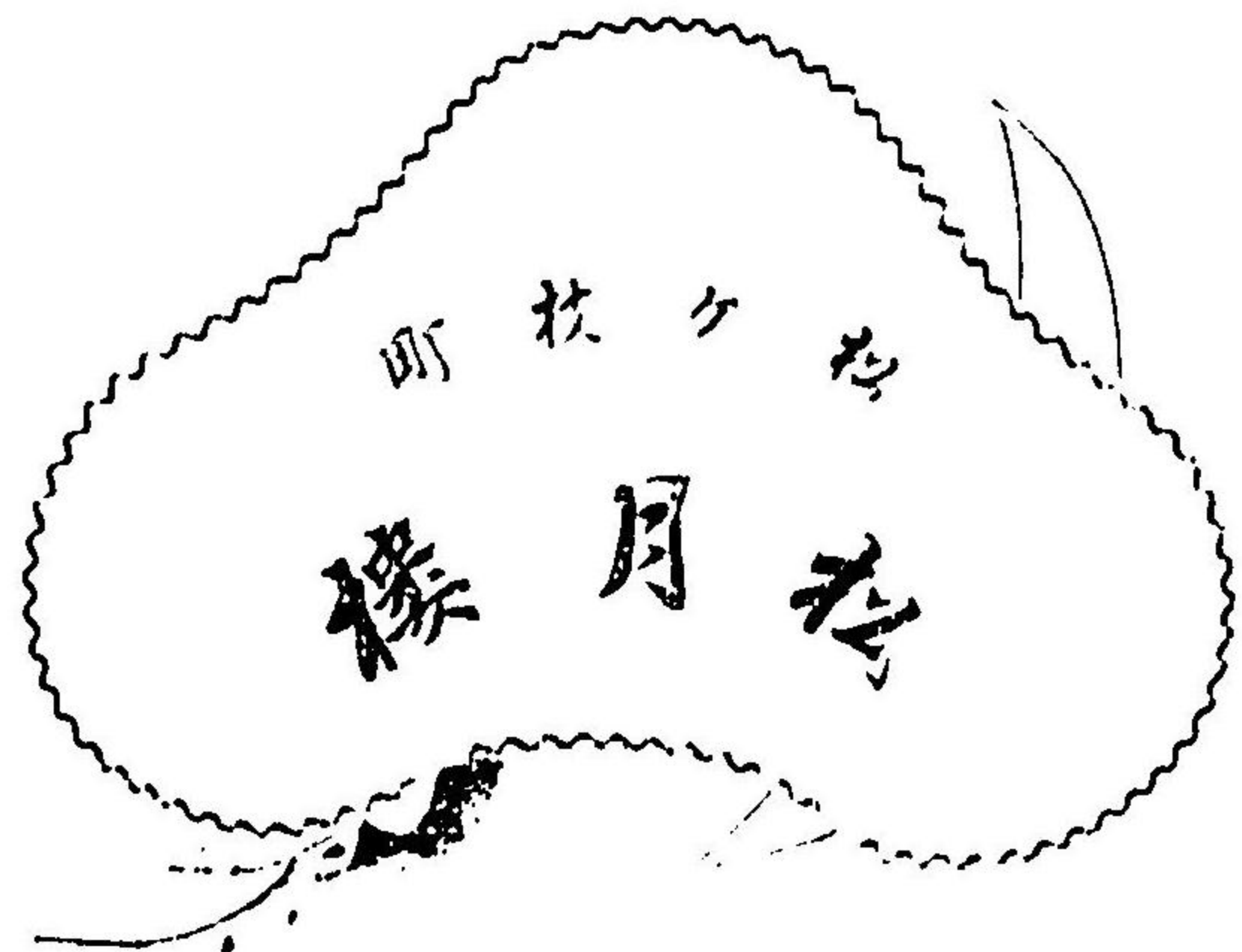


寺満圓可之湯後道

\* して到る所般賑を極めて居た、この邊は其頃入海であつて今の道後山を境に山越の山脈勝山、江戸山、高岡山などは孰れも灣内に基布點在する所の島嶼であつた、三ツの港は即ち熟田津（温泉湧出の邊）、成田津（伊佐爾波

變じて現今の如き平現となると共に三津の名は二里も西の三津濱町に遷つたのである、之に就ては異説が二三に分れて頗に其正邪を判断し難いが茲には古説のまゝを記して置く

▲出雲岡（一名冠山）町の中央に在る高さ十六間の小丘である、蒼松繁茂して鬱蒼たる所は實に神寂びたれ居る分一尺二寸である、太古大已貴命が蘇生した



▲靈の石 神の湯第一室の前面の少し東手の路傍に瑞地を繞らして堅く不淨を禁じた靈地の中に收めてある方角三個の石である、圓き方は直徑二尺五寸、平き方は長六尺、幅三尺五寸で厚地上に現

る古歌『伊豫の湯の汀に立てる靈の石これそ神代のしるしなりける』尙ほ此の靈の石の側に東宮殿下御車寄の松がある。

▲三帝行宮の跡  
 人皇第三十七代齊明天皇、第三十八代天智天皇、第四十代天武天皇が此温泉に行幸相成つたことは國史に徴して明かなる事實であるが其行宮のものがなかつた、然るに或時、羽の足塞た鷲が飛で來て涼の如くに僅かば



道後後鷲溪

に就ては二説あつて、一は今の奥谷即ち實嚴寺が其跡だと云ひ、一は素鷲村大字立花といふ説である、こゝには暫く奥谷の説に據つて置かう。

▲鷲池 傳へ曰ふ太古天下に大地震のあつた時この温泉も埋れて久しく湯が湧かなんだので年経ても其源を知る

かり溜つて居る水に其脛や翼を浸し、ツの石の上止つて乾かし又往ては浸すこと數日に及んだが終に治して飛び去つた、邊り近き一人の老翁が惟みて件の溜水を掬んで見ると湯氣が立つて温ひので初めて靈泉なることを知つて水道を求め神井を掘り再び以前の湯に復つた、其源を鷲池と唱へ今の温泉場の庭内に在る小さな地がそれである、又た鷲の止つた石を鷲石（二名羽休石）と稱し其所在は各所に轉々したが今は祝谷客天神の傍に遷してある。

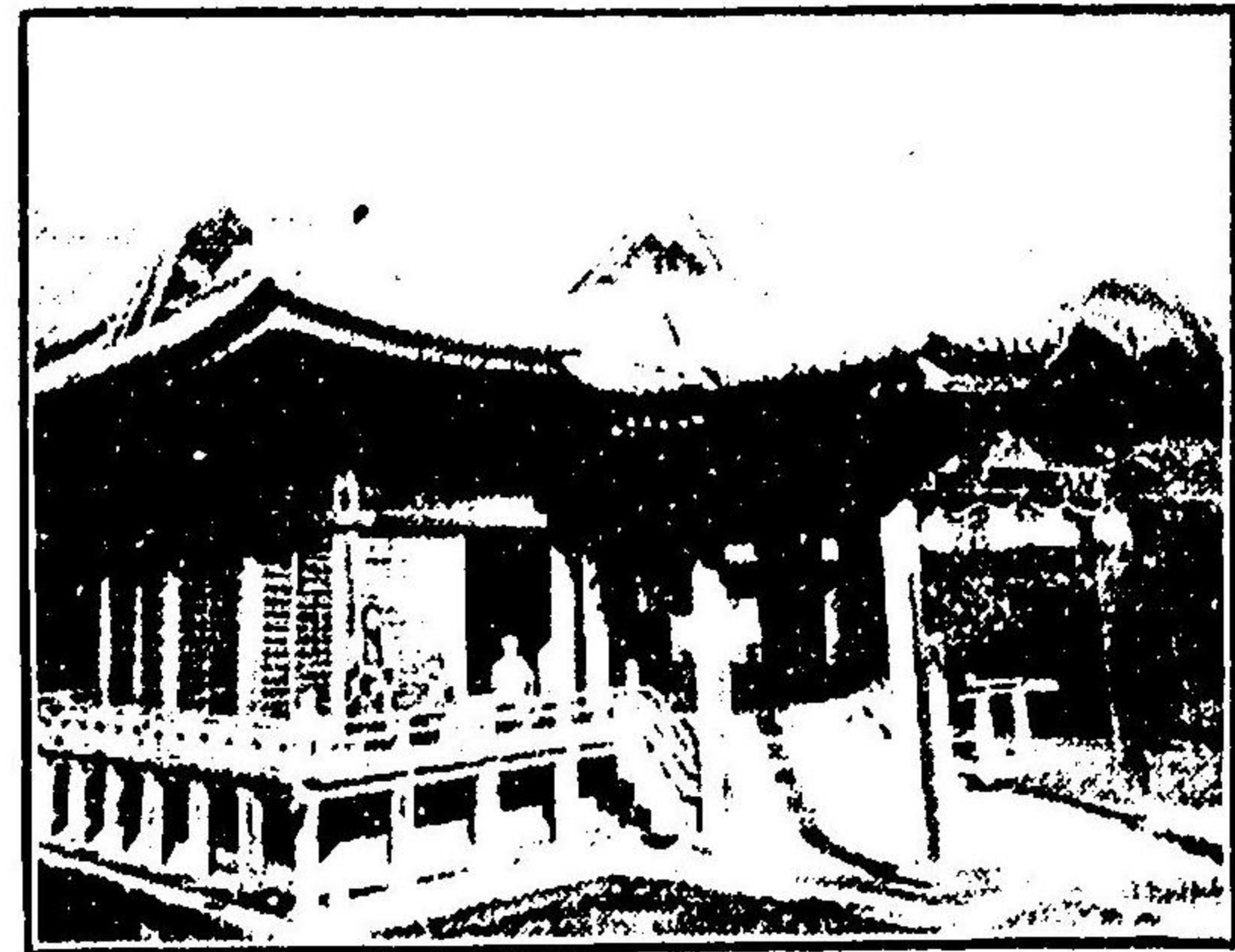
▲上宮太子の温泉碑 推古天皇の四年十月に聖德太子が葛城臣及び高麗の僧惠聰法師等を將ひてこの地に行啓相成り温泉の靈驗を稱揚した碑石を伊佐爾波岡に建てられた事實は歴史に隠れない所である、然るに白鳳十三年十月の四國大地震にこの碑は土中に陥没して今に其所在を得ぬのは遺憾千萬である、釋日本記に載せてある碑文は左の如くである。

温泉碑  
 法興六年十月歲在丙辰我法皇大王與惠聰法師及葛城臣道遙夷與村正觀神井歎世妙驗欲被意聊



作碑文一首

惟天日月照於上而不私神井出於下無不給萬所以機妙唯百姓所以潛居若乃照給無偏私何異于壽國  
隨草藥而開合沐神井  
而瘳疹詎外于落花池  
而化瀾窺望山嶽之嶽  
罅反冀于平之能往椿  
樹相溝而穿隙實相五  
百之張蓋臨朝啼鳥而  
戲吐下何曉亂音之聒  
耳丹花卷葉映照玉葉  
爛葩以垂井經過其下  
可優游豈悟洪灌雨底  
意興才拙實慚七步後  
定君于幸無徵出喉也



宮照東谷祝

▲振鷺園 明治二十五年の頃町の湯(神の湯一室)に据へてあつたもので享祿四年の大地震に温泉

有志者等が謀つて町費を以て開鑿したのがこの振鷺園である、温泉場に接する東北の小丘で園内には諸種の花樹を植ゑ珍石を蒐め四季の眺めに富むで居るので浴後の小散策には頗る妙である、  
▲昔の石釜 振鷺園の中腹に一小亭を設けて其中に安置してある石

が破壊したのを時の國司河野通直が修築し新たに据えた石釜で面には樂師如來の像を彫り蓋には六字題目、廻りに願文並に享祿四年辛卯河野太郎通直と記してある温泉場が現今の建物に改築された際この石釜を園内に遷し之に更ふるに新らしき石釜を以てしたので

温 泉 場 西 角

岩 田 川 旅 館

同く振鷺園内に在る明治五年原湯の前に新建物を築く際聖徳太子の温泉碑を探らんとて湯の近邊を掘り試みた所が神の湯第三室の前から古色蒼然たる花崗石を發見した其形状から若くは年代から推測すると古碑の臺石であらうと鑑定して今の所に遷したのである

▲古碑の臺石 十年五月舊松山藩主久松勝成公が建てられたもので其當時は温泉場の西側

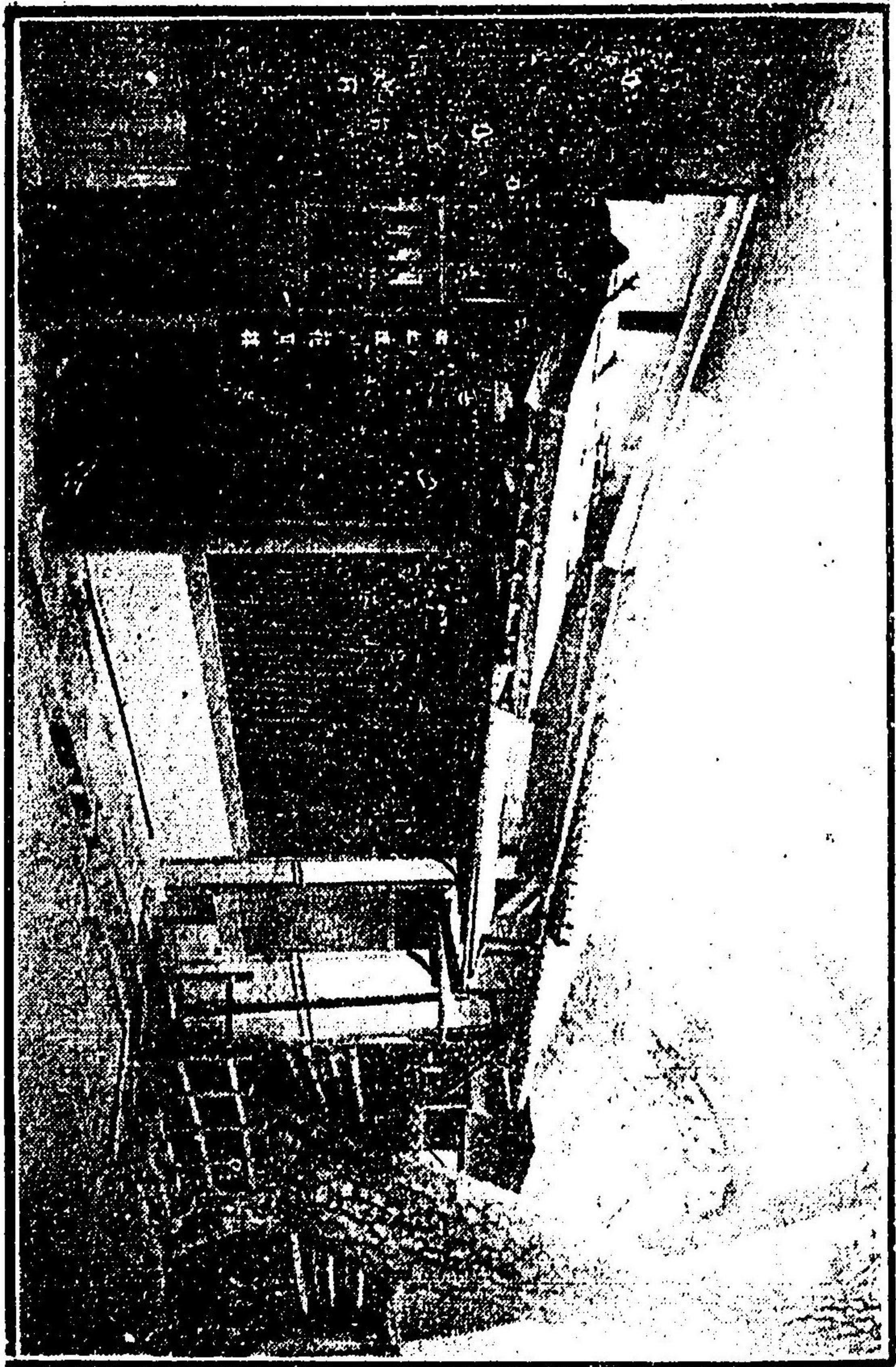


にあつたが振鷲園の拓かるゝに當つて此園内に移したのである。

▲天神ヶ平 振鷲園から真東に當る道後山の一部平坦になつた部分を世に天神が平と稱して居る、口碑に依ると昔菅原道真公が左遷の途次この靈泉に浴せられたがこの山に登つて遠近の眺望を賞せられた遺蹟であるといふ一説に右は左遷の時でなく讃岐守時代に道後温泉の靈泉を傳聞して入温に來られたのであると、其何れにしても菅公の遺蹟たることは明かである。隅に技を垂れ葉を重ねた老松がある、此丘の上の眺望は蓋し道後隨一である。

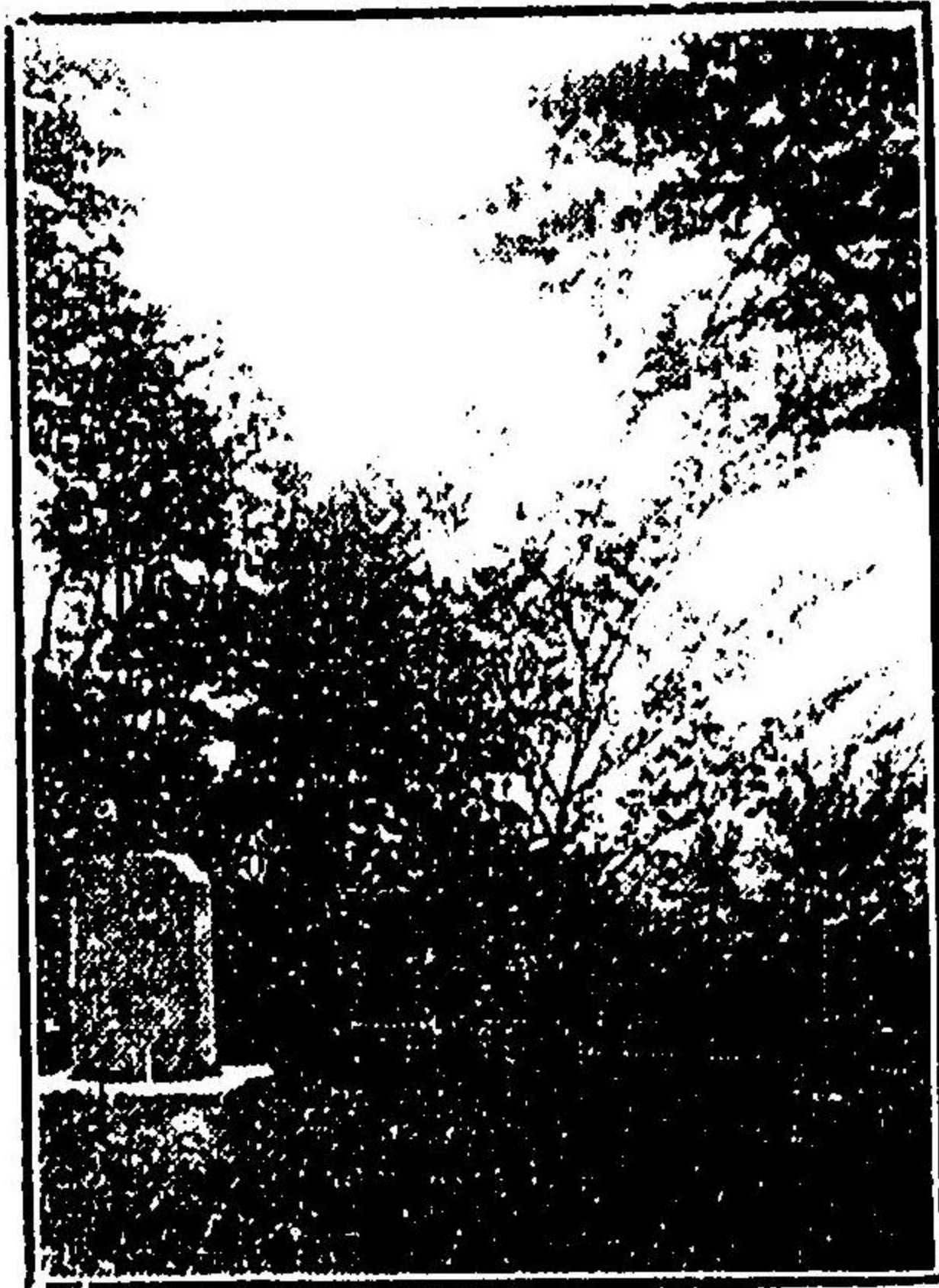
▲蛙の名所 冠山の東麓に川満寺と號する一古刹がある、同寺は蛙の名所で境内の小池に棲む蛙は一種微妙な聲で鳴くので名がある、松山城主松平定長公が山城井手の里なる名蛙を取寄せてこの地に放たれたのが始まりである。

▲一遍上人誕生地 遊廓松ヶ枝町の奥に寶嚴寺といふ名刹がある、時宗の祖一遍上人が誕生したのは實にこの寺で時は恰も延應元年四月八日であつ



御料理 鴨 溪 花月樓

た、一説に上人は湯月城主河野四郎通信の第三子別府通廣の三子で幼名を聖衆丸と稱して居たが年十八の時に朋友を殺し後人に悔ひて剃髮僧となつたのである、正應二年八月二十三日五十一歳で攝州兵庫に遷化した上人は足跡六十餘州に及ばぬ限なく俗に稱して遊行上人といふた聖僧である。



山越櫻谷跡六十日櫻

▲御手洗川 伊佐爾波神社の鳥居際を横流す。稱する式があつたが今は廢れてこの神事なし、▲鴨溪 冠山の南麓御手洗川の畔に在る、道後十六谷の最勝地であつたが河野家滅亡の後漸く荒廢に歸したのを天保年中松山藩士大高坂舍人(號天

翔すべきものが  
ある、正面の石  
橋の上で大板式  
を修行し早稲年  
にはこの石橋を  
徹して板橋に代  
へ浮橋の新橋と

山)が開拓して亭を營み五清樓室と呼んで自ら楽しんで居た、天山の歿後再び荒廢したのを明治十七年道後湯之町の有志者が修築し清流に沿ふて二十餘の榭亭を設け遺蹟を繼いだ、一に紅葉と稱して緑陰深く閑雅俗腸を洗ふに足るの名地である。

▲道後八景

義安寺の燈

奥谷の鶯

圓満寺の蛙

冠山の杜鵑

御手洗川の水鷄

湯元の蜻蛉

▲道後十六谷

石切谷 柳谷 櫻谷

義盛寺谷 細見谷

圓満寺谷 鶴立谷

木法寺谷 雲之本谷



(覽淑下陸皇天)櫻日六十寺穩龍越山

▲道後八勝

温泉樓上の觀月 振鷺園の暮雪 鶴溪の納涼 放生池の蓮花 鷺谷の晴嵐 公園の櫻花 石寺の晚鐘 拓川の垂綸

◎道後村

▲伊佐爾波岡(射狹庭又た誘庭)道後山の東南に突出せる部分で高さ十七間二尺で古來柿の木谷邊から湯月の古城即ち今の道後公園まで一脈の丘陵であつたが湯月城を築くに當つて要害のため山脈に數丁東北に上つた山間の名で往古は樹木が鬱蒼と茂つて

温泉場前

旅館

俵屋

▲石切谷 温泉場から

を斷つて深としたのである、伊豫風土記に聖徳太子が温泉碑を建てられたのはこの所で四民其碑を見んごて常に誘ひ合つて來り集つたからこの名があるのだといふ、古歌『里人はいさささそひて誘庭のふみかゑすらん年の暮とて』

商 號



伊豫松山市南八坂町



佐伯機織所

電話二七二番

佐伯鐵工所

電話二五〇番

佐伯

糸繰所

電話二七二番

時は炭焼小家もあつたが其後樹木を伐採し花崗石を切出したのでこの名があるのだ

▲鷺谷 温泉場の北市の共葬墓地に通ずる山間を稱するのでこゝに鷺の井といふ古蹟があつたが今は其趾燬滅して僅に一の古井のみが残つて居る、こゝにも昔時温泉が湧て居たといふことである

▲柿の木谷 伊佐爾波岡の南、義安寺後の小谷の名で往古歌聖柿本人麿がこの地に庵を結び靈泉に病痾を養つたため斯く名けたのだ、このことだ

▲景行帝行宮跡 温泉場の北に當る岡山即ち現今龍穩寺山と稱する所で中古河野家香花院の舊跡である、この岡山と稱する地は後に河野家が別荘を營むた地で通直が老後出家し龍穩寺と號する寺を創建したが龍穩寺は河野滅亡の後に今の山越へ移營したのである

▲仲哀帝行在所跡 人皇第十四代仲哀天皇、后息長足姫(神功皇后)伊豫の湯に行幸あり新宮を伊佐爾波岡即ち現今の伊佐爾波神社石段の中間を右折したる山坡に建て給ひ行在所となす、この所に湯壺を構へ湯を汲み運び

しより湯築といひこの岡を御行宮山と呼びしを後世誤りて湯月と書し又たみかり山と略稱するに至つたのである。

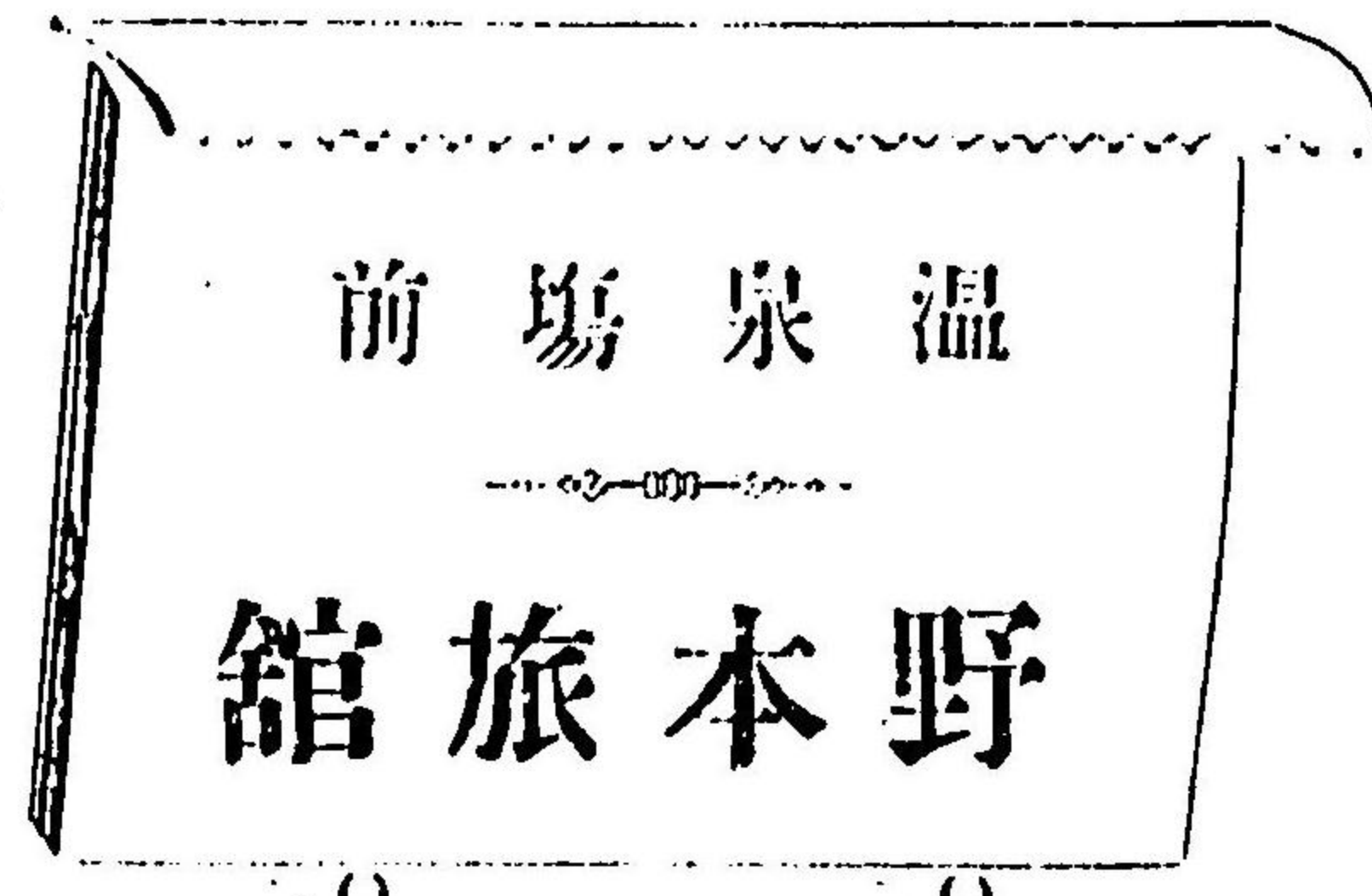
▲湯月古城（湯月館）今の道後公園の地が即ちそれである、建武年中河野通治が築て築く所で濠二重を構へ東西に門を建て城は東表であつたのである、河野家この谷に棄て、居た、今でも其邊を堀ると土器を得ることがあるさうだ。



伊達西法寺瀨墨櫻

\* 滅亡の後天正十六年福島正則がこの城に居つたが加藤嘉明が松山城を築くに當つてこの石を取り全く廢濠となつた、本壇の南西に小さな谷があるこれを土器谷と稱して當時城内の炊事場であつたのだ、この時代には食膳に土器を用ひて居たので日々使用済の土器を

▲道後公園 爾來古城跡は接む人もなく漸く荒廢して竹林と變り常に鳥や鷺の類が群がつて居たのを明治十九年縣の事業として伐拓き現今の公園となしたのである園内廣く四季の花樹に富む中にも櫻を以て名あり盛春の美觀は眞に筆紙の能く盡す所でない、建武以降戰國時代の名残は今も



らく全國公園中有數のものであらう、丘下には其周圍に大馬場があり東麓眺めらるゝなど其風景は恐

\* も尚ほ園内を二重に繞つて居る外濠、内濠に止めて當時の武威を偲ばしむるものがある、公園は大部分が丘陵に依つて成つて居るが勾配最も緩き其路を使つて丘上に登つて見ると三方に平野が潤けて松山城下は指廊の間に在り遠く伊豫の小富士を距て、山陽道の連峰が淡墨繪の様に糺糊として

料御室皇國英  
用御省信遞國帝  
車轉自ヂーラ

和洋酒  
元  
村上酒店  
商賀號

車轉自ヂーラ



燒酎白酒  
保命酒  
製造元




歐米自轉車  
元  
松山二輪商會

角目丁二町湊市山松  
番五四二話電長

(65)

の稍や平けた所にはトラックが設けられて學校の運動會や諸種の競走會など盛んにこゝで行はれる、丘の中腹なる平地の北隅に垣結ひ繞らした四阿は曾て東宮殿下が行啓の際御休息あつた所で其傍に殿下御指植の松が彌や榮えに榮えて常住不滅の常磐の色を見せて居る、園内には聚樂館、風詠館其他の建物があつて料理業を営みまた丘上丘下の所々には榭亭が點々建てられて遊客のために席貸をして居る。

▲古の伊佐爾波神社 道後公園内東南の丘上に奇岩怪石が禿兀として相重り櫛の樹立がこんもりと茂つた邊りに、小祠が營まれてある、世にこれを岩崎神社と稱し最も神聖なる地として崇敬措かざることであるがこゝは古へ伊佐爾波神社の鎮座あつた所であるが河野通信の湯月城を築く際に現今石段の中間南際に遷し而して其舊趾に小祠を建て、遺蹟を存せしめたものである。

▲戒能谷の螢 道後公園を東に距ること二百歩ばかりの所に義安寺と號する桑門がある、この邊を総稱して戒能谷といふがこゝは螢の名所で形大である。

(64)

光強く俗に義安寺と呼びて其名地方に普く古今の詩歌も甚だ多い

▲車返しの名櫻 古刹石手寺の境内薬師堂の傍に年経て咲ける一名櫻がある、世にこれを車返しの櫻と稱して賞観措かぬことであるが、この櫻は崇

徳上皇が讃岐國からこの地へ行幸あつて花を御覧あらんとせられたが春淺く花未だ空しきに上皇は門前まで還幸相成つた時俄かに花が開いたとの奏聞に再び御榮を返させられた故この名があるのだ、御製に『名におは、復

も来て見む花の春夕影のこす雪の古寺』

▲源頼義の墓 同じ石手寺の山門の前を流る、道後川に架けられた石橋の畔蟠屈せる老松の下に五輪の塔がある、世にこれを源頼義の墓標だと稱するが眞偽は直に保し難い、又たこの石橋を渡つて二の門際の東側に不動石といふ七八尺の青石が建て、ある、確と見えぬが其石面に俱梨迦羅龍が彫つてある、これ亦た何の謂れか窺ふことが出来ぬ

▲新四國と穴居の跡 道後山の峰つゞきで石手寺の堂後に當る世俗石手山と稱する山に羊腸たる路を拓いて所々に小宇を建て新四國といふを設けて

ある、これは四國の靈場八十八個所に做つたもので四時參詣者の跡を絶たないが殊に春が最も盛んである、山には山躑躅が多く花の頃は満山錦を飾つて美しい、この山の中程に穴居の跡と稱せらる、穴がある、奥暗くして

底を窺ふことが出来ぬが一説に古代の墳墓だとも傳へらる、

▲竹宮の館墟 河野家の一族に竹之宮官主といふ武士があつた、其館は今

の持田に建てられてあつたが館の坤に夜々光り物があつて瑞氣が立昇るよ

り官主は怪しむで其地を堀らしめた所一体の地藏菩薩の石像を待たので一

宇の堂を營むで安置した、これ即ち今の佛海山西龍寺の境内にある地藏尊

で世に京都壬生寺の地藏の半身だと稱せられて居る、

▲菅公の遺蹟 祝谷字山崎の御幸山東麓に客天神社と稱する宮が在る、菅公が筑紫へ左遷の時、船越智郡の櫻井濱に漂着し陸路この地へ來られて暫く淹留された垂跡の地である、創立の年は詳でない

▲簀毛の櫻 鷺谷の奥に大禪寺といふ寺が在つた、昔この谷に鳥越山鷺谷寺と號する一字の堂があつたが漸く衰頽に歸したを元祿九年支那の僧千呆



といふ人が千秋寺からこゝに退隠して再興し鷺谷山大禪寺と改めたのである。境内には芭蕉天神や観音堂などもあり相當聞えた寺であつたのに數年前全く廢絶した然るに古來其山門を入つた廣庭に一株の枝垂櫻があつて世にこれを箕毛の櫻と稱し今も残つて居るが花時の美觀は隠れない。\*に富むで四時の行樂に妙である。



道後義安寺

\*この櫻は大休和尚の手植なりと云ひ傳へて居る。  
 ▲吉野櫻の名所 祝谷字田高の常信寺境内には近年多數の吉野櫻を移植したので春の眺めは格別である、殊に境内は幽邃閑寂で雅人の節を曳くには最も適して居る、其西に在る東照宮もまた四顧の景色

◎湯山村

▲湯山の城趾 河の中に在るものを重松城といひ重村太郎居る、宿野々に在るものを奥之城といひ河野六郎通存居り河野の族七人こゝにて戦死せしが城趾に甲岩梅の古木の遺物あり七月二十四日\*里餘の川を湯手川と稱し一に寶川ともいふのだ、

會席御料理  
 うなぎ蒲焼  
 まむし  
 八幡馬場  
 浪花亭

\*戦死者の靈を奥濃城七人墓の前に營むさうである、菊ヶ森城は食場に在り三好長門守秀吉居る子孫連綿として今尚ほこの地に住して居る、日浦に在るものを森之城といひ森善三郎の居城であつた▲石手川 源を湯山水ヶ峠の溪流に發して松山市の南を流れ伊豫郡に於て重信川と合し海に注ぐ八

いふ地がある、往古この邊に温泉が湧出して朝夕湯気が濛々と立昇つて居たのでこの名が起つた所以である、附近に河野通忠の住んで居た柚之木谷館の跡があつて其麓に温泉の淵と呼ぶ深淵がある、これが即ち石手川の源泉なのだ。

▲湧ヶ淵 湯山の内宿野々の山間に在る、石手川の主流で兩岸には危巖絶峰が突兀として奇勝畫にも及ばぬばかりである、水は岩石に堰かれて淵となり深きなり老樹鬱蒼として畫尙ほ暗き裡に百雷の一時に落つるが如き響きして流下する急湍は目も眩れ心消ゆる程で凄まじいなんざいふばかりもない、但彦集に義安寺建立の時湯の山から多数の楠木をこの川に流した所湧ヶ淵で悉く水底に巻き入れられ土佐の國に流れ出たといふ物語がある、又たこの淵に古來大蛇が棲むで里を荒し民を悩ましたのを食場の舊家三好の祖長門守秀吉の長男藏人之助秀勝が元和年中に鉄砲で討止めたといふ怪談も残つて居る、現に三好家には今も蛇骨を存して居るとのことだ、又其の少し下流に半藏淵(山太郎淵)と稱する勝地がある。

▲水墜の瀧 湯山の内末の山間に在る水源は堂谷で高さ二十二間、幅三間から六間までだが未だ世に知られて居ない。

▲水力電気発電所 松山市を始め道後、三津、高濱、郡中等へ晝夜電力を送つて居る伊豫水力電気會社の発電所は實に石手川の上流湧ヶ淵の附近に設けられてあるのだ、其設備の壯大にして新式機械を應用しかゝる山間僻輒の地に盛に文明風を吹かせつゝある状況は是非一見の價値があらう。

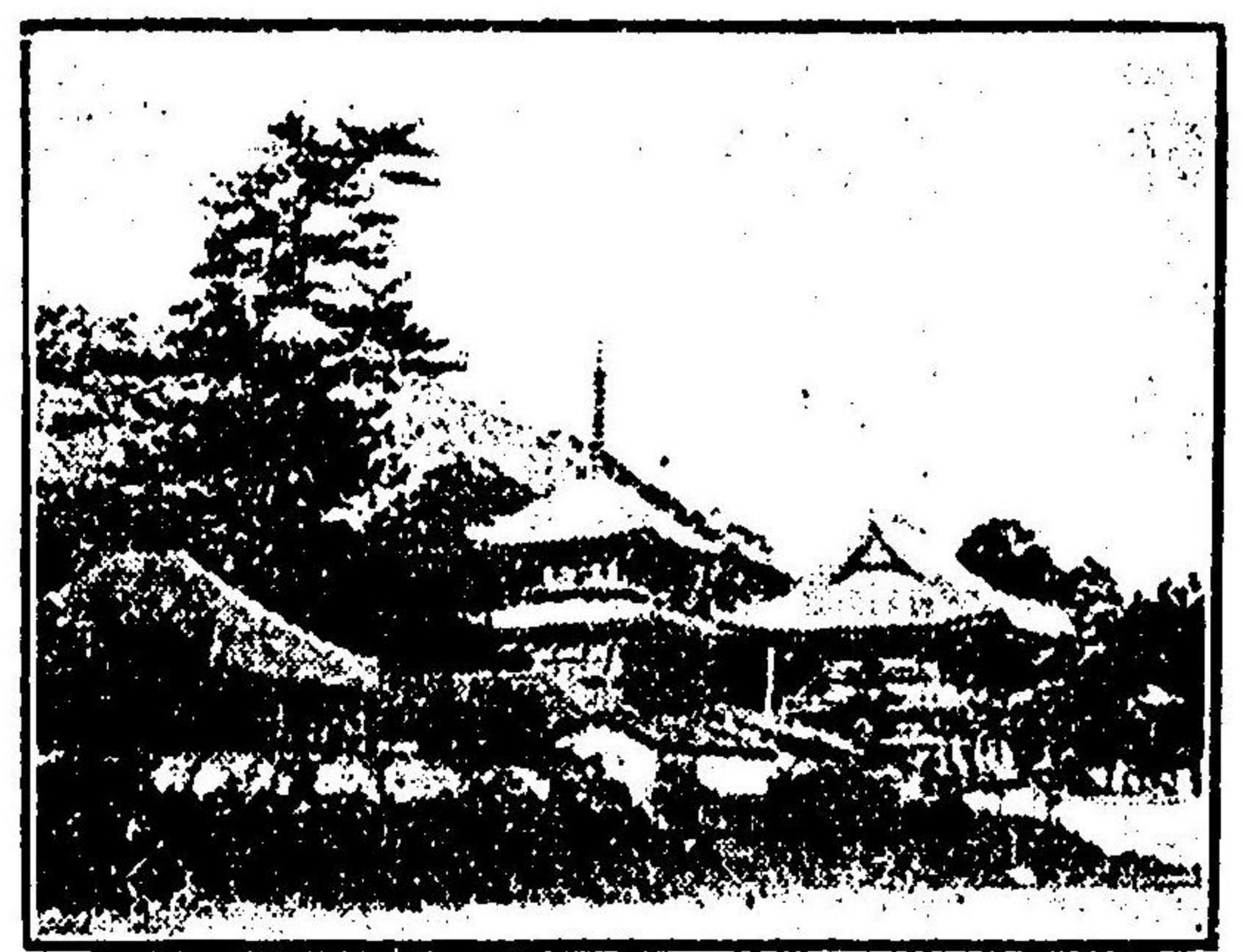
▲岩堰の勝 湧ヶ淵の下流石手寺を距る數丁の東南方に岩堰と稱する一勝地がある、河身全流が大理石様の岩石で出来て居るが拓川の清流この岩に激して白泡を飛ばし碧潭坐に腐寒きを感じる所確かに一勝地たるを失はな

い結の名所だ、近年其對岸に帶水亭なる一榭亭を設けて行客の便に供しつゝある。

◎伊 臺 村

▲薄墨櫻 大字下伊臺に西法寺と號する古刹がある、延暦十一年桓武天皇

の御宇一修院宮の建立で河野對馬守が鬼門鎮護の靈場で七堂伽藍二十二坊を控へた名寺であつたが治承元年火災に罹つてさしも壯麗を極めた堂宇悉く灰燼となつた之れを壽永元年國守通有が伽藍を再建したのである、境内に一大櫻樹がある、世にこれを薄墨櫻と稱して其名遠近に隠れな\*の繪旨を給ふたのでこの名ありとも傳へらるゝが恐らく其名の因つて起つ



寺下石番一十五内の場横ヶ八十八國四

\*き所であるが其謂れは天武天皇の白鳳九年皇后が御病氣に罹らせ給ふたのでこの寺の本尊藥師如來に御祈願相成つた所忽ち御平癒遊ばされたので繪旨を下し給ふたがそれが薄墨で記されてあつたので斯く名付くともいひ又一説に昔嵯峨天皇の御宇當寺に勅使立ち薄墨

たのは其葩が薄墨色であるからだらう。  
 ▲逆様川 本名を伊臺川といふのであるが水源は堀江村大字大栗より來るものご上伊臺から發するものごが清岡で合して太松に至り曲折して東に流れ湯山村の食場で石手川に合するるのである、其水流が西から東に懸而小竹櫃。

(\*) (\*)

和漢洋藥品類諸賣藥

和洋酒食料品各種

辻田藥店

(\*) (\*)

\*及んで居るので俗に伊臺の逆様川といふのである。

◎御幸村

▲舒明天皇行宮の趾御幸寺山の南麓に在る御幸寺が即ち其趾である、温泉場から西に八町餘り三津街道に沿ふて居る、帝の御製に「山越乃風乎時自見寐夜不落家在妹乎」

▲御幸寺山城趾 御幸寺山は高さ四百八十尺で平野に屹立した險阻な山であるがこの山は河野通之が居城の趾である、今山頂の宮はこの地で戦死した通之の孫犬坊師丸並に同殿として愛宕、白山の二神を合祀し三木寺明神と稱する神社である。

▲十六日櫻 (一名孝子櫻) 大字山越龍穩寺の北、櫻谷に十六日櫻と稱する名花がある、毎年正月の十六日に花を開くので其名は最も著しいのだ、龍穩寺の庭に在るものは後世移植したものである、(一説に櫻谷は其古跡と云ふばかりで十六日櫻は龍穩寺のが真物だ、櫻谷の櫻は昔あつた其跡へ他の樹を植ゑたのだとも云ふ) 昔この地に一老翁があつて病の床に就いたが命旦夕に迫るに及んで其子に最早世に望みはないが唯だ櫻の花を見ずして死ぬる事のみ口惜しいと嘆いたので其子は一夜櫻の下に祈願した所不思議に時ならぬ正月十六日に花が咲いて翁の病も癒えたといふ、斯くも愛でた花である所から代々の天皇が道後温泉に行幸ある毎に必ず御轡をこの地に寄せられ給ふた、舒明天皇も同じく行幸相成つたに如何なる故か其年に

限つて花が咲かなかつたので最興なき事に思ひ召しながら其まゝ還幸あらんとし給ふたに跡より花咲くこと申し奉つたので急ぎ御轡を返させ給ふたこれに依つて其阪を車返しの阪と稱する由舊記に載せてある、石手寺のそれに酷似した物語である、又天徳年中都より橋主計頭といふ朝臣が勅使としてこの地に来られ親しくこの花を觀て復奏された、勅使が車を停めた所は今長建寺の山門の傍を斜に流るゝ小川に架けた石橋の際でこの橋を勅使橋(一に藤橋、無漏橋)といふ、正月十六日は恰も殿上で踏歌の節會を行はるゝ當日である所からこの名櫻を一に節會櫻とも稱し又感應櫻の別名もある。

▲爲朝の古蹟 山越の岩田といふ地に黒い色をした岩がある、こゝは昔源爲朝が射術の稽古をやつた蹟だといふことで後世小祠を建て、矢取権現と號して居る。

▲露兵の墓 松山は俘虜收容の地として歴史ある處である、日清戦役には多数の清兵を山越長建寺に養つたこともある、日露戦役には又最も早くよ

り最も多くの露國海陸兵を山内及び附近各所に收容し規模の大なる俘虜病院も特設されたのであつた、だから收容中此地に死歿したのも随分多くない、で山越の字妙見山と云ふ處に露國將卒三十餘名の墓標を建て今は地方名所の一に數へらるゝに至つたのである。

### 神社佛閣

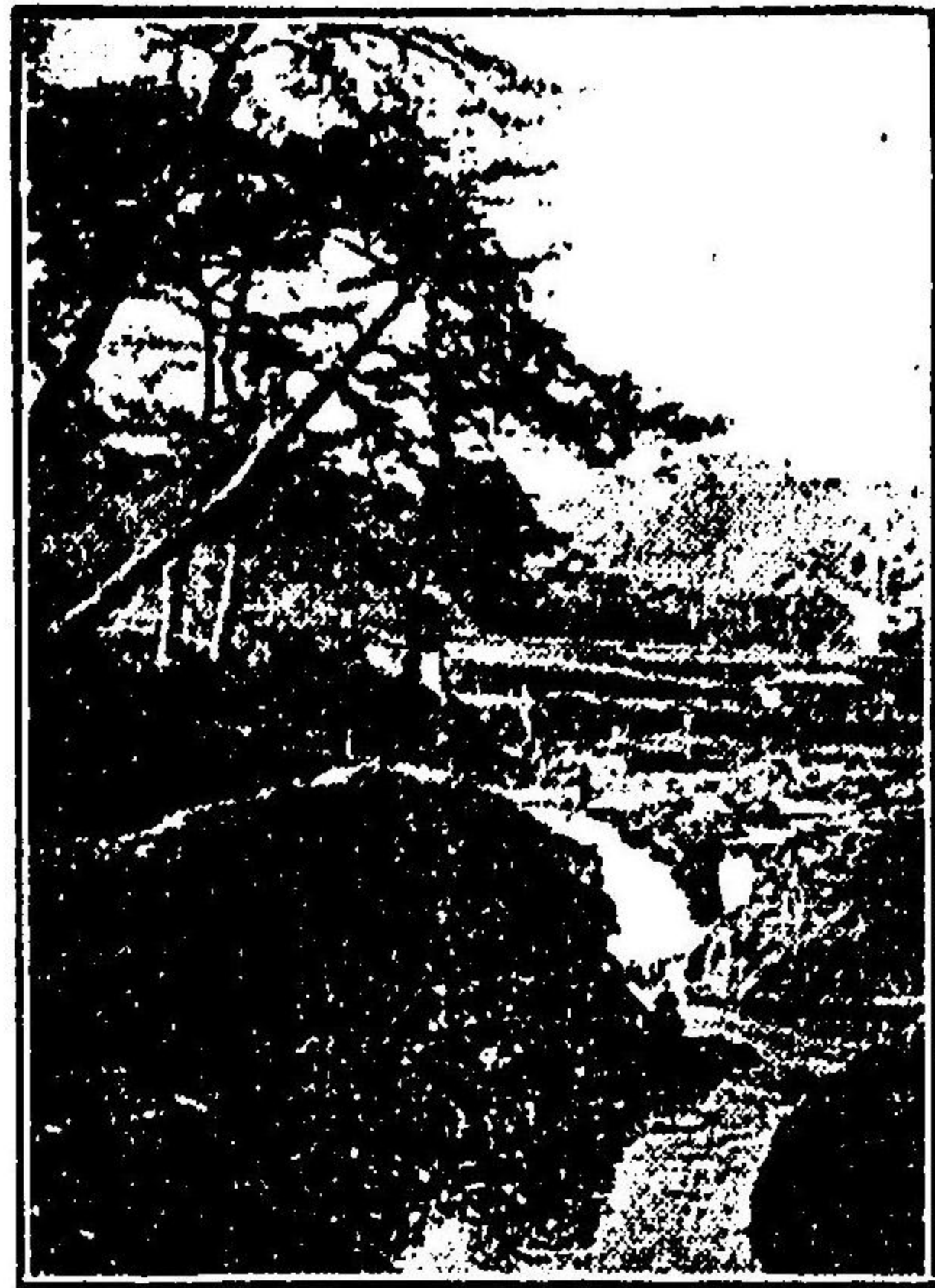
#### ◎道後湯之町

▲湯神社 景行天皇の勅を以て建て大

腹に在つて神大市姫と河野直廣とを齋祀してある。

▲寶殿寺 國司乎智守興が天智天皇の勅を奉じて創立した古刹で本尊は春日作の阿彌陀如來だ、後兵發に罹つて伽藍の過半を焼失した、今の松ヶ枝町は其築坊の跡である。

▲圓満寺 弘仁三年國司散位太深躬の建立で、削と寶厨部の開山、昔天徳山にあつた行基作の



石手川上流岩堰の奇勝

▲出雲園神社 湯神社の相殿で延喜式内の神社である、祭神は素戔鳴尊、稻田媛命で舊記に孝靈天皇の勸請とある。

▲兒守社 冠山の南

座像地藏尊(丈一丈二尺餘)をこゝに移して今尚に境内に安置してある

#### ◎道後村

▲伊佐附波神社

延喜式内の神社で比賣大神、譽田別尊、足仲彦尊、息長足姫命を合祀してある、河野元興の建立で道後七郡の守護神と定められた、中古湯築大神、近代湯月八幡宮と稱して居たが明治三年舊名の伊佐附波神社に復したのである、再\*



#### 道後湯之町旅館常盤館

▲三の改築、修繕を經寛文七年松山城主松平隠岐守定長が飛彈の瓦匠を招き山城石清水に倣つて社殿全部を改造し華麗の彫刻色彩を施し壯麗善美を盡して居た。

▲大山積神社 石手字中筋に在る、弘安二年河野野馬守通有が越智郡宮浦の大山積神社末社十六座の一を勸請したのである。

▲東照宮 祝谷に在る、松山城主松平定行の勸請で文久年間大に工を起

し三年にして社殿等の造營を了つた、結構誠に莊麗を極めて居る。

▲客天神 祝谷字山崎に在る、創立年代不詳、明徳四年河野通能再建、加藤嘉明修繕す。

▲石手寺 四國靈場第五十一番の札所で往古は虚空藏院安養寺と號した巨刹である、神龜五年聖武天皇の勅願所として創營され天正元年國司越智玉沱再建して行基律師自作の藥師如來の佛像を安置した、弘仁四年空海上人が留譯して眞言宗に改め後數度の修繕を経て其一部は兵燹に罹つたが三重塔と鐘樓仁王門は昔のまゝに残つて特別保護建造物となつて居る、上巳の節旬の翌日には練供養、春三月二十日、二十一日及び夏七月の二十日、二十一日には大法會を營み遠近の賓客群集する。

▲義安寺 天文八年河野彦四郎義安の創建に係る、本尊は釋迦の座像、境内に行基作の藥師、唐製の觀世音を安置してある、堂後に義安の祖父にして弘安四年蒙古退治の役に筑紫の海で戦死した伯耆守通時の遺骸を葬つた墓がある。

▲西龍寺 持田に在り。

▲市隱軒東照寺 道後公園の西門前に在る、本尊は春日作の觀世音で天文十三年河野彈正少弼道直の妻綾子が剃髮して月海智印禪尼と號し創立した尼寺である。

▲常信寺 祝谷字田高に在り、松山の弘眞院勝山寺を移營したもので久松氏の廟所となつて居る。

### ◎湯山村

▲天一神社 藤野々にある舊松山藩主の新願所で祭神は奈賀加美、天御中主の二神である、寶庫

に藏むる春日作の面を湧ヶ淵にうつして雨を祈るの神秘がある。

▲新田神社 川中の東の岡に在る、上新田社は新田義宗を祭り下新田社は脇屋義治を祭る、嘉吉二年の創營で天文十七年河野通直の勸請である、社頭を東に距る數十歩の叢中に二公の墓碑並に社前に二公の事蹟を勒した碑が在る。

▲素戔神社 柳に在り素戔鳴尊を祭る、年頭五ヶ日は俗に柳祭りと呼ばれ参拜者最も多く地方有名なる市日の一である。

### ◎御幸村

▲龍穩寺 山越の山腹に在る曹洞禪寺で天臨山と號す、河野家累代の菩提院で天文十三年通直の開基、後年温泉の北陵から移營したものである。

▲御幸寺 御幸寺山の南麓に在り。

▲千秋寺 山越に在る黄檗禪宗の古刹で貞享年間千呆和尚の開基である、古へは堂宇樓閣壯麗を極めて居たが今は殆ど頽廢して漸く半ば壊れた山門に當時を偲ぶ位である。

▲天徳寺 山越字宮ノ内に在る河野刑部大輔通宜の香花院であつた、後村上天皇の勅に依て彈正大弼が道後屋形の北多幸山に天徳山彌勒寺の古伽藍を移營せしめられたのが即ち當寺である。舊記に據るとこの寺は推古天皇の御宇聖德太子が詔を受けて伊豫に下り創建した大伽藍で日本四十六大寺の一ツであるといふ、今は漸く衰微して當時の面影も止めないが藏する所の古文書が多い、境内に聖觀世音の佛堂があり又た背後の山に三十三番の觀世音を安置してある。

△選熊八幡神社 山越に在り、武連守護神として聞えて居る。  
 △其他 山越には長建寺、來迎寺、不退寺、法華寺、弘願寺、龍奈寺など云ふ多数の寺院がある。

### 名物名産

▲古への湯桁細工  
 ●六花集の『伊豫の湯の湯桁の数は左八ッ右は九ッ中は十六』また『影



石手川上流ヶ淵の勝奇

りと窮むることは出来ないが上れる世の温泉は湯の湧き出る所に池を掘つて其中に板を渡して入浴に便して居たものらしい、この板が即ち湯桁なるもので其数が左に八、右に九、中に十六、総て三十三あつたものらしい、

●うつす伊豫の湯桁の数は

わきてさやけき十六夜の月』と詠じたる道後温泉の湯桁に就ては諸説紛々として其何れを真な

又道後古記といふ書物に『鴻荒の世椋巨の二大樹あり、大さ數百尋稱して扶桑木と云ふ湯の岡に其理木を掘り得て湯桁を構ゆ』とある、道陽舊誌に『天平勝寶之丑巳天十一月國司乎智宿禰玉興釋行基律師と力を合せ之が修營をなし且つ其南に一大湯桁を増設したり』と記してある、之等に據て稽ふるに概略當時の面影を彷彿の間に認め得らるゝこ

## 旅しなや

※とが出来るのであるがこの湯桁の遺物を種々の細工に用ゐたのがこの地の一名物として珍重せらるゝのである、今尙ほ坊間に置いて居るもの

もあるがこれは全く古への湯桁に模したもので其眞物は殆ど跡を絶つた、道後公園丘上に建てゝある東宮殿下御休憩所の御腰掛の椽は湯桁の遺物じやと稱せられ居る。

▲扶桑木の彫刻品 扶桑木は一に之を神代木とも稱して古史などにも記されてある上古の巨樹であつたのだ、伊豫風土記に『上古温湯谷上有二大樹、一曰棕木、一曰巨木、其樹高聳碧落、其枝葉若垂天之雲』とあつてこの二本の樹は伊豫の温湯の谷即ち今の道後温泉の附近の山間に空を摩して生ふて居たものらしい、然るに大洲舊記に據るに其所在は今の伊豫郡北山崎村大字森字柱谷から字大川らしく今に郡中邊の海中や海濱から其古根が掘り出さるゝ、これが即ち扶桑木なるもので質堅緻、色深黒恰も黒檀に似て光澤あり麗はしきこといはん方ない、これを諸種の彫刻、細工物或は床置などにして世に賞翫さるゝ、昔は湯の町に細工の名人も居て盛んに製作して居たが今は全くなくなつて僅に其名残を骨董屋の店頭に止めて居る位である。

▲湯染手拭 湯の町の土産物店、雜貨店などに濫色をして『道後温泉染』などの文字を現はして居る手拭を割で居る、これが即ち名産の温泉染で湧き出づる温泉の湯口に浸して染めたものである、湯治中に好みの文字なり

繪畫なりを書いて染めて貰ふことも出来る、一寸面白い土産物である。▲湯晒艾と湯晒團子 普通の艾を温泉で晒しつゝ製したものを湯晒艾といつてこれまた湯の町の各商店に賣つて居るがこの艾の内には温泉の氣を含んで居るので一倍効能があるとのことだ、湯晒團子は温泉場の附近で賣つて居る串ざし餡ころの類で其粉を湯で晒したものだ。

▲道後煎餅と甘酒 道後停車場に下車して放生池を右手に眺めながら北へ進むと路の兩側に軒を列べた商店がある、各戸ともに店家臺へ山の様に積むだ白や赤や黄の煎餅を賣つて居る、形は恰も括り猿の様で十個が一錢位お粗末なものであるがこれが道後の最も古き名物に數へられ今尚ほ温泉へ行つたら必ずこの煎餅を買つて歸らねばならぬとまでいはれて居る、また之等の店には其庭に眞鍮の釜をかけて甘酒を賣つて居るがこれも道後煎餅と共に古來一つの名物となつて居る、因にこの頃道後停車場前に温泉煎餅といふのを賣つて居るがこれは大小數種の玉の形ちした煎餅で裏面に温泉の古歌などを現はした味も頗る佳なるもので今や新名物の一となつて其



發賣高も夥しいごのことだ。

▲竹細工と桑寄生  
 細工湯の町の各商店で販賣して居る竹細工は頗る精巧なもので確かに地方の一名産である、中にも提籃や花挿などには稀有の珍品があつて世に聲價を博して居る、又近頃桑寄生細工を賣つて居\*



松山市大字後道町成松牧場全景

\* 之が亦た立派な美術品である。  
 ▲この外、土産物としては機軸細工、湯桁香鬘、湯桁油、湯桁飴、湯の玉、湯の花などもある。



# 道後温泉の分析

明治三十九年五月、道後温泉事務所の依頼で、東京衛生試験所が實地に就て行ふ道後温泉の分析成績表

- 一、温泉の種類
- 二、温泉の成分
- 三、温泉の温度
- 四、温泉の流量
- 五、温泉のpH
- 六、温泉の硬度
- 七、温泉の硫酸根
- 八、温泉の塩化物
- 九、温泉の硫酸根
- 十、温泉の硫酸根
- 十一、温泉の硫酸根
- 十二、温泉の硫酸根
- 十三、温泉の硫酸根
- 十四、温泉の硫酸根
- 十五、温泉の硫酸根
- 十六、温泉の硫酸根
- 十七、温泉の硫酸根
- 十八、温泉の硫酸根
- 十九、温泉の硫酸根
- 二十、温泉の硫酸根

發賣高も夥しいこのことだ。

▲竹細工と桑寄生  
 細工湯の町の各商店で販賣して居る竹細工は頗る精巧なもので確かに地方の一名産である、中にも提籃や花挿などには稀有の珍品があつて世に聲價を博して居る、又近頃桑寄生細工を賣つて居る。



松山市大字道後町成松牧場全景

美術品であつても、この外土産物として、襦袢細工、湯桶香、湯桶油、湯桶飴、湯桶の玉、湯の花などもある。



## 道後温泉の分析

明治二十九年五月道後温泉事務所の依頼で廣島衛生試験所が實地に就て行ふた道後温泉の試験成績は左の如くである。

### 靈湯試験成績表

一本泉理學的性質

- (一) 温度 攝氏四十五度八 (氣壓七五七、氣温一九、九)
  - (二) 外觀 淡黄色を帯び殆ど透明なり
  - (三) 臭味 極微の異臭を有し收味を帯ぶ
  - (四) 比重 一、〇〇二七 (攝氏一五、〇)
- 一本泉化學的性質 「リットル」中「センチグラム」を表示せしものなり

- (一) 反應 亞爾加里性
- (二) 蒸發残渣 七八、九八五
- (三) 酸素消費量 五、八六五
- (四) 成分 (化學的原則に據り結合せしめたるもの)

硫酸那篤價膜

一八、九九三

格魯兒那篤價膜

一六、三二八

硫酸加爾叟膜	一三、五二二	砒酸那篤留膜	一一、八五六
炭酸加爾叟膜	七、四二四	硫酸麻偏溼叟膜	五、二九七
重碳酸那篤留膜	二、〇六五	磷酸加爾叟膜	一、三四〇
硼酸那篤留膜	一、一六二	游離及半飽和炭酸	五、九八七
亞酸化鉄	少 量	硝 酸	痕 跡
合 計			

醫 治 効 用 (内服)

第一 貧血症、慢性腸胃加答兒、慢性佝僂質斯及胸膜炎肋膜炎、心臟の諸病、皮膚の諸病  
 第二 神經衰弱症、諸種の肺病、氣管支加答兒、男女生殖器の諸病、貧血より來る腦の諸病

神の湯第一、第二、第三室試験成績表

一本泉理學的性質

- (一) 溫度 攝氏四十六度八 (氣壓七五九、氣溫一九、八)
  - (二) 外觀 僅微の黄色を帯び殆ど透明なり
  - (三) 臭味 微に異臭を有し收味を帯ぶ
  - (四) 比重 一、〇〇一〇六 (攝氏一五、〇)
- 一本泉化學的性質 「リットル」中「センチグラム」を表示せしもの  
 (一) 反應 亞爾加里性

- (二) 蒸發残渣 七七、八三七
- (三) 酸素消費量 五、五五六
- (四) 成分 (化學的原則に據り結合せしめたるもの)

硫酸那篤留膜	一九、六六九	格魯兒那篤留膜	一五、五九七
砒酸那篤留膜	一一、六一三	硫酸加爾叟膜	一一、八五五
硫酸麻偏溼叟膜	八、七五八	硫酸加爾叟膜	三、七七五
重碳酸那篤留膜	三、九六四	磷酸那篤留膜	一、五九七
游離及半飽和炭酸	五、八八七	亞酸化鉄	微 量
硼 酸	微 量	硝 酸	痕 跡
合 計			

醫 治 効 用 (内服)

第一 慢性佝僂質斯及痛風、慢性肋膜炎及腹膜炎、貧血症、腺病、皮膚の慢性炎症  
 第二 慢性腎炎及膀胱加答兒、婦人生殖器の慢性諸病、神經衰弱症、歇私的里、重病後の快復期、  
 下痢症

養生湯東西室試験成績表

- 一本泉理學的性質
- (一) 溫度 攝氏四十五度四 (氣壓七五七、氣溫一九、七)
  - (二) 外觀 微淡褐色にして濁濁セリ

(三) 臭味 微に臭氣を有し味ひ收斂なり  
 (四) 比重 一、〇四一八(攝氏一五、〇)  
 一本泉化學的性質 「リットル」中「センチグラム」を表示せしものなり

(一) 反應 亞爾加里性  
 (二) 蒸發殘渣 八二、九六九  
 (三) 酸素消費量 六、一一九  
 (四) 成分 (化學的原則に據り結合せしめたるもの)

硫酸那篤僞膜	二〇、三二五	格魯兒那篤僞膜	一七、七九五
硫酸加爾叟膜	一五、九八六	硅酸那篤僞膜	二三、〇五五
硫酸麻僞叟膜	九、二一四	炭酸加爾叟膜	二、二五二
重碳酸那篤僞膜	一、六七九	磷酸加爾叟膜	一、二三一
硼酸那篤僞膜	一、四二五	游離及半飽和炭酸	六、三七五
亞酸化鉄	微量	硝酸	痕跡
合計			

醫治効用 (内服)

第一 慢性胃加答兒及慢性腹加答兒、下腹充血、肝臟充血貧血、萎黃病肺炎及胸膜炎、喘息  
 第二 喉頭咽頭の慢性加答兒及慢性氣管支加答兒、一般神經病、痔疾、腺病、梅毒症諸病、子宮炎、便秘

湯試驗成績表

一本泉理學的性質

(一) 溫度 攝氏四十二度(氣壓七五六、氣溫一九、五)  
 (二) 外觀 黃褐色にして大に濁濁せり  
 (三) 臭味 臭氣甚たく味ひ收斂性なり  
 (四) 比重 一、〇三五九三

一本泉化學的性質 「リットル」中「センチグラム」ヲ表示せしものなり

(一) 反應 亞爾加里性  
 (二) 蒸發殘渣 九七、四二三  
 (三) 酸素消費量 七、六五三  
 (四) 成分 (化學的原則に據り結合せしめたるもの)

硫酸那篤僞膜	二一、七三八	格魯兒那篤僞膜	一九、〇一五
硫酸加爾叟膜	一五、二二三	磷酸加爾叟膜	一三、三六二
硅酸那篤僞膜	一一、四〇六	硫酸麻僞叟膜	六、七一五
硫酸加爾叟膜	四、〇三六	硼酸那篤僞膜	二、四八一
炭酸加爾叟膜	二、二三五	重碳酸那篤僞膜	一、二六八
游離及半飽和炭酸	六、五七八	亞酸化鉄	少量
硝酸	少量	亞硝酸	多量
安母尼亞	少量	酸化水素	少量
合計			

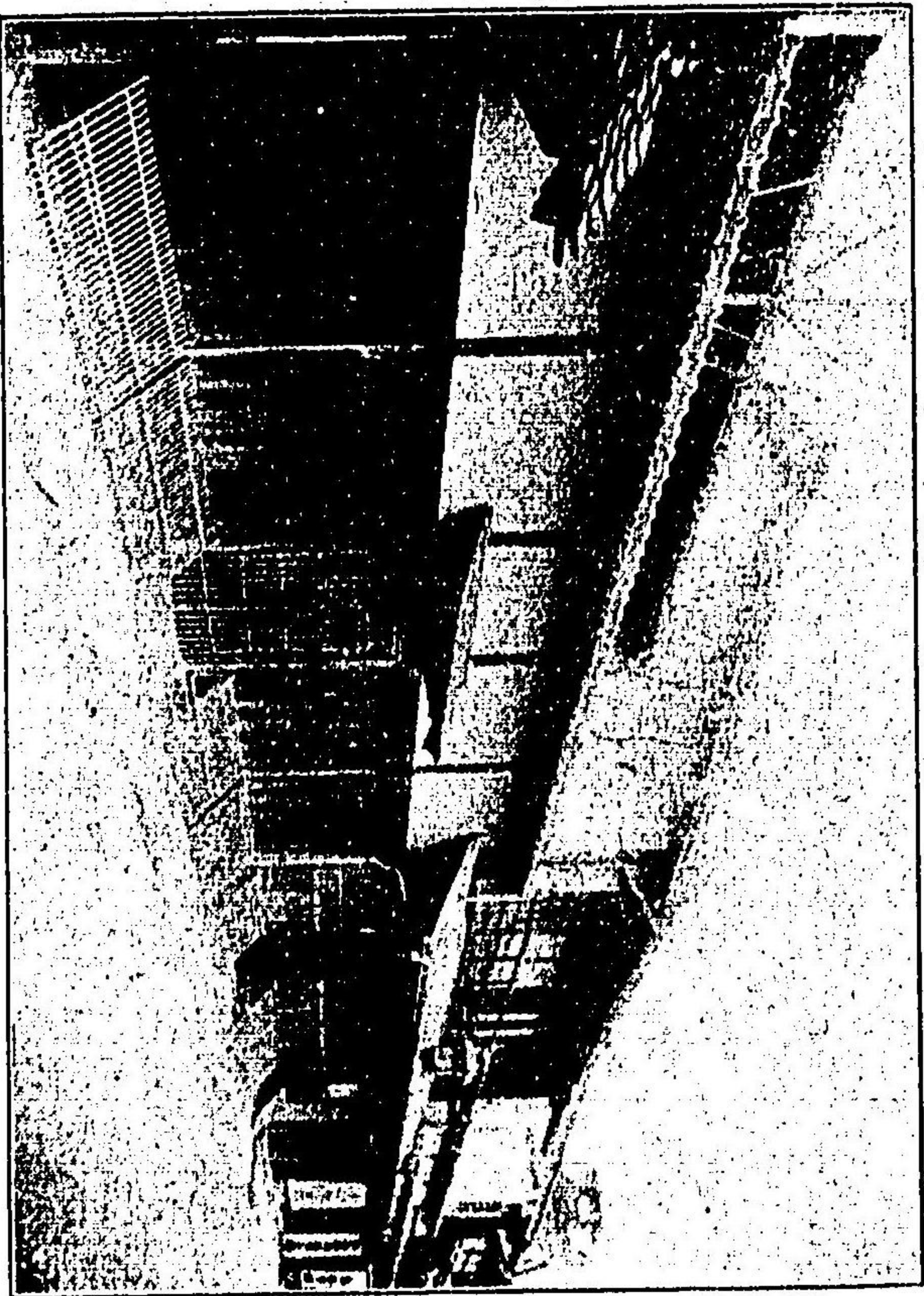
**醫治効用 (外用)**  
 第一 梅毒、瘡毒、疥癬其他慢性皮膚病、癩病、腺病、軟下疳、硬下疳、粘液漏症  
 第二 多血症、五痔症、肥胖病、尿道膀胱及腎盂の加答兒、子宮腫脹、水腫病、黃疸病  
 本泉は決して内服すべからず

**温度 (華氏寒暖計)**

湯殿	湯	湯	湯	湯	湯	湯	湯	湯	湯	湯	湯	湯	湯	湯	湯	湯	湯	湯	湯	湯	
御	靈	全	神	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	
乃	乃	之	之	生	乃	乃	乃	乃	乃	乃	乃	乃	乃	乃	乃	乃	乃	乃	乃	乃	
甲室男浴	乙室女浴	一室男浴	二室男浴	三室女浴	東室男浴	西室女浴	男浴	女浴	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	
百十五度五	百十五度五	百十六度	全	全	百十五度五	百八度五	百八度五	百三度五	百三度五	百三度五	百三度五	百三度五	百三度五	百三度五	百三度五	百三度五	百三度五	百三度五	百三度五	百三度五	百三度五
射出後温度	射出後温度	射出後温度	射出後温度	射出後温度	射出後温度	射出後温度	射出後温度	射出後温度	射出後温度	射出後温度	射出後温度	射出後温度	射出後温度	射出後温度	射出後温度	射出後温度	射出後温度	射出後温度	射出後温度	射出後温度	射出後温度
百四度	百九度	百八度	百十二度	百十度五	百九度	百四度五	百四度五	百四度	百三度	百三度	百三度	百三度	百三度	百三度	百三度	百三度	百三度	百三度	百三度	百三度	百三度

備考 射出口温度とは湧出する瀧口の温度にして射出後温度とは一般入浴する所の温度なり

化粧室の設有り



浴室の新築成る

松山市三番町 紀伊旅館 電話七十五番

明治四十三年三月廿日印刷  
明治四十四年一月十日發行

(定價一册五錢)

松山市三番町四十四番戶  
著作兼發行者 栗本諒二

松山市魚町二丁目九番戶  
印刷者 福田勝太郎

松山市魚町二丁目廿七番戶  
印刷所 福田印刷部

道後湯之町  
發行所 今井神泉堂

正 札

吳服太物商

松山市港町三丁目

志

京都吉田重兵衛支店

電話 四三番

大阪七八一八番

鹽屋

明治四十三年六月廿日印刷  
 明治四十四年一月十日發行

定價二册五錢

松山市三番町四十四番戶  
 著作兼發行者 栗本諒二

松山市魚町二丁目九番戶  
 印刷者 福田勝太郎

松山市魚町二丁目廿七番戶  
 印刷所 福田印刷部

道後湯之町  
 發行所 今井神泉堂

土木建築請負業

材木卸小賣業

材木機械挽業

松山市唐土町三丁目

ヤ

山本春五郎

電 器 (カ子ヤ)

各公債  
諸株券

賣買業 藤田相次郎

松山市末廣町一丁目

電話三三三番



正 藍 染

吉 仔 豫 練  
製 造 販 賣

松山市湊町字百目  
小崎機織所

茶 用  
御 菓 子 司

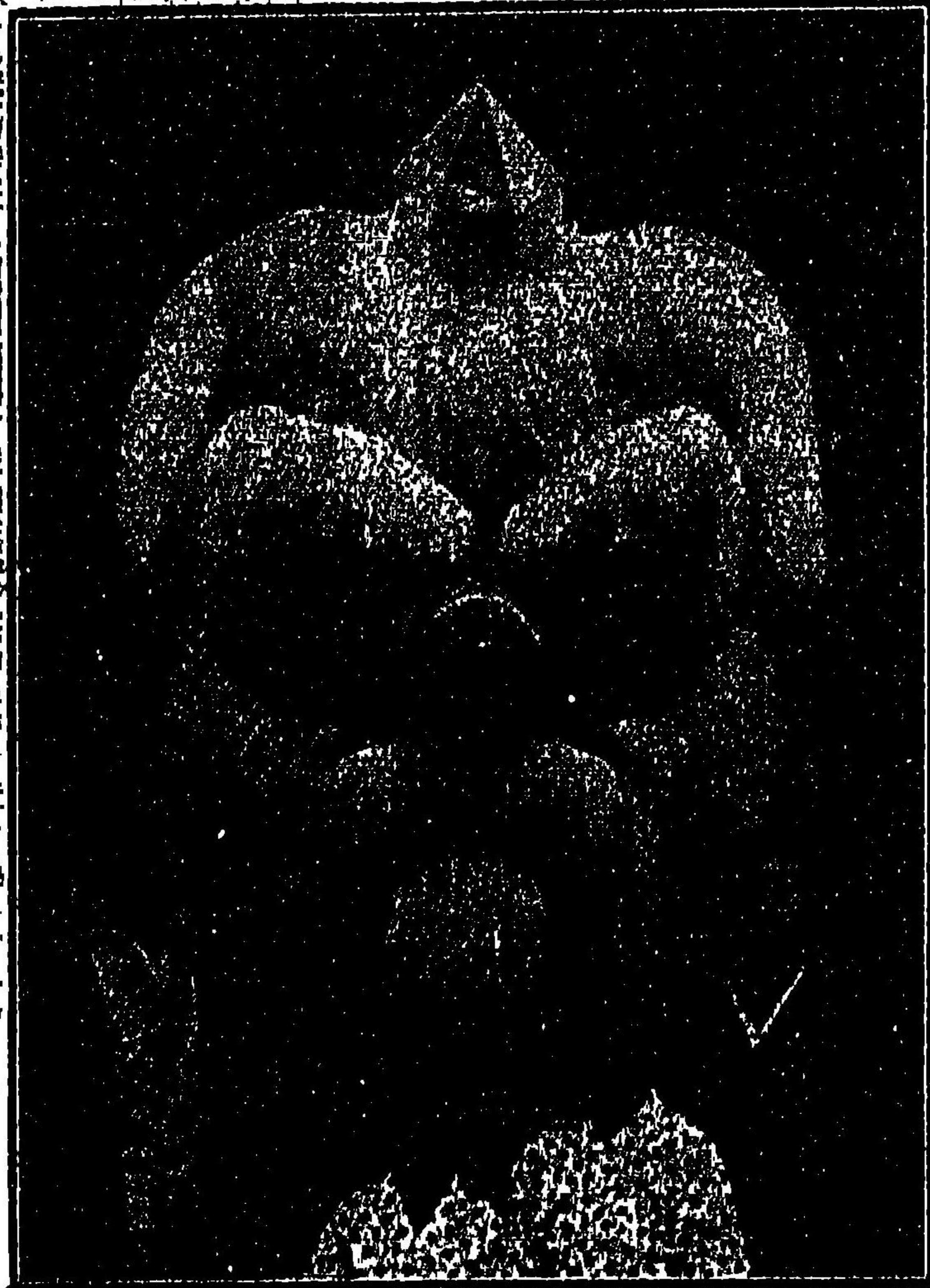
松山市大街道二番町角

山内百華堂

(電話三七〇番)

美術婦人小間物各國化粧品

備本國發・粉洗まらへ・クギチ・ニ・んえじめき



松山市大街道 天狗屋商店 電話七拾四番  
 製作の中 尾根板八尺四寸六寸

● 盛花一切花一切 ●

觀賞植物種苗其他

四時花ノ絶ユル

ナク眺望ニ富ム

松山市古町驛

知新園

夜間園内ニ點燈ス

散步納涼ニ宜シ

牡丹朝顔菊等花壇

● 園藝諸器具類 ●



# 御料理

新築落成  
客席數ヶ所

松山市豊坂町  
龜の井

電話二百十五番

山松  
目丁四町濑  
店服呉周米  
番六参 店話電長  
座口金貯替振  
番八〇八四店坂大

御料理  
成  
の  
井  
三井物産株式会社

# 御料理

松山市二番町

# 梅の家

電話三十七番



和洋御料理

松山市三番町

明治樓

電話 貳貳五番

皇太子殿下ノ電覽ヲ賜ハル

愛媛縣知事正五位勳四等本部  
 陸軍軍醫監前川榮殿ヨリ賞  
 陸軍一等藥劑官民野鎌太郎  
 殿及二等藥劑官中島藤太郎  
 殿ヨリ証明書受領  
 愛媛縣立松山病院院長醫學士  
 津下海殿及全副院長醫學士  
 西卷治一郎殿ヨリ賞狀受領

旭サイ  
 録登  
 商標  
 萬歳  
 ラムネ



弊會ノ清涼飲料ニ依リテ  
 其製法ニ依リテ  
 上ノ原料ニ依リテ  
 衛生官廳ノ御  
 監督下ニ於テ  
 衛生官廳ノ御  
 監督下ニ於テ  
 衛生官廳ノ御  
 監督下ニ於テ

松山市唐人町  
 鈴木木商會  
 電話長一四番



▲鈴木のラム子▼

胸もすくよな嬉しい話、飲んで来たのかラムネでも... 都々逸子は巧いことを云つて居る、疳癩が起つてムカッとした時に鉢でも茶碗でも何でも叩きつけて木葉微塵に打破たのと、胸の支へた時キエーッとい一本のラムネを飲んだのはグーッと溜飲が下つて何とも云はれぬほど氣持の好いものだ、其氣持の好いラムネを製造する處は我松山に三四軒あつて年々十万打、百二十万本以上のラムネを製造して居る、此十万打百二十万本のうちで半数以上は萬歳ラムネと銘うつた唐人町三丁目の鈴木商會で製造した品で、萬歳ラムネの名は松山附近は勿論縣下一般、中國九州地方まで知られて居る、のみならず鈴木はラムネ製造家として松山の元祖であつて今日の如き良品を製造して神戸、大阪の製品を地方から驅逐して下うまでには非常な苦心と研究を経たものである、されば鈴木は松山のラムネ界の功勞者で而して松山一の製品家である。

効能

本劑ハりん病しようかち一切ニ特效アリ  
本劑ハ如何ナル重症ト雖モ一劑ニテ効アリ  
本劑ヲ服シテ効ナキ時ハ速ニ代金返戻可仕候

官許保男



りん病大妙薬

商標附女

伊豫松山市北京町(精米湯前)  
高等理髮館

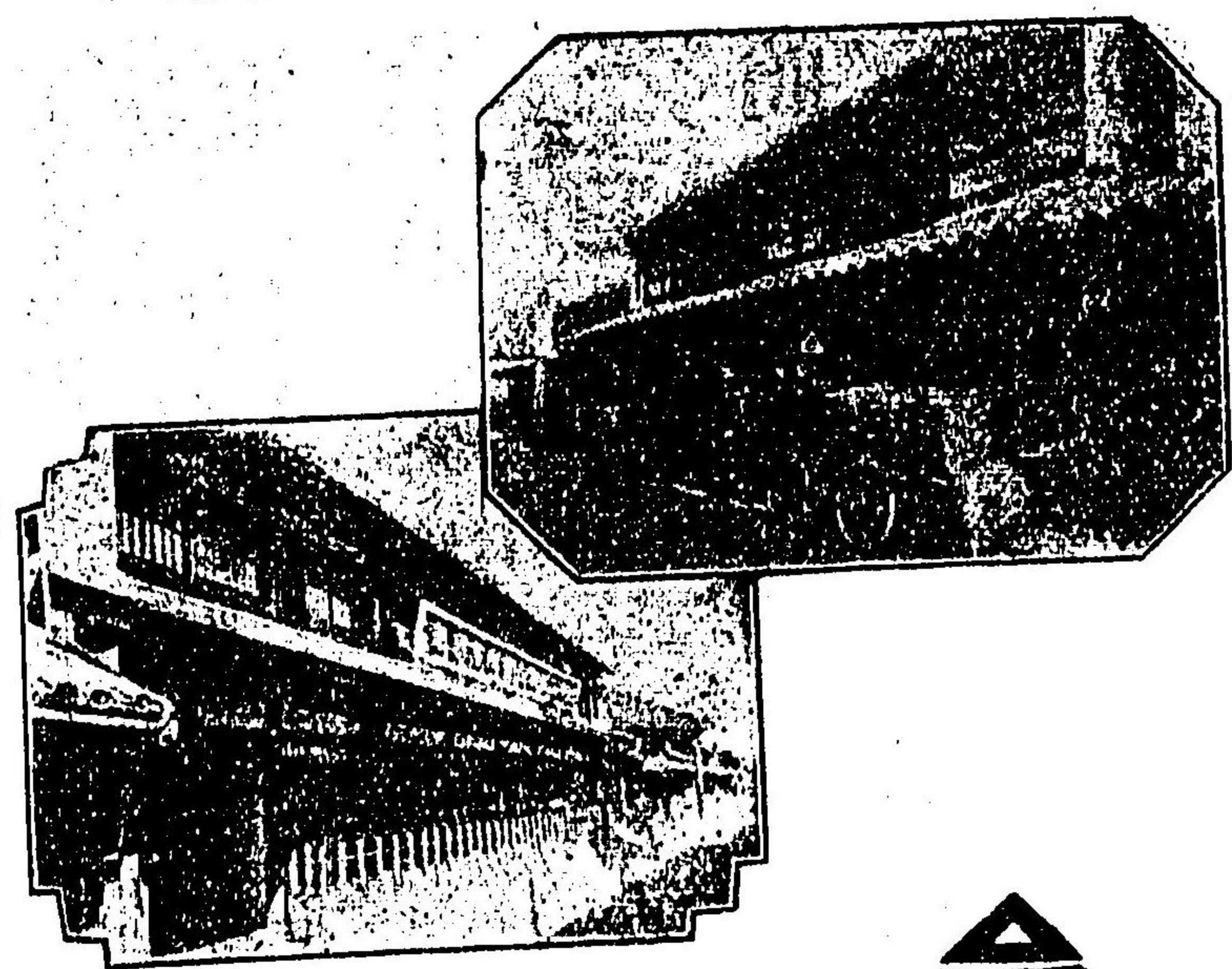
製劑本舖

吉田正信鑑製

●無効返金

〔定價壹週間分 參拾五錢 送料貳錢〕  
〔但シ收入印紙郵券代用ハ一割増〕

261  
839



諸官衙用達



福田合名會社

松山市魚町二丁目

電話二二二一番  
振替口座大阪五九三〇番

和洋諸紙商

活版、石版  
寫真、銅版  
印刷業





026101-000-3

特61-361

道後の温泉

栗本 諒二(黒面郎) / 編

M44

ADC-3758

